

明石市

こども・若者計画



2026年(令和8年)3月

明石市

わたしたちの想い

私たちは、明石市に住み、学び、働くこども・若者として、これからの明石のまちを、私たち自身の言葉で考え、計画にまとめることになりました。

この計画を考えるために、明石市が行った公募に応募し、「未来の明石のまちづくりに関心がある」という思いをもったこども・若者が集まり、こども・若者会議のメンバーとして話し合いを重ねてきました。

私たちは、明石のこども・若者の代表として、自分たちの意見だけでなく、学校でのワークショップやアンケートを通して、より多くのこども・若者の声を聴きながら、未来の明石のまちづくりにつながる「こども・若者計画」をつくってきました。

これまで、まちのことは大人が決めるものだと思っていた人も多かったと思います。でも、私たちは日々の生活の中で、「こうだったらいいな」「ここが少し困っている」「もっとこうしてほしい」と感じる人がたくさんありました。

この計画は、そうした思いを出し合い、話し合い、こども・若者自身の声をもとにまとめたものです。こども・若者のための計画であると同時に、こども・若者自身が考え、つくった計画です。



1. 話し合いをする上でのルールを決めました

私たちは、市の公募に応募して集まった、年齢も学校も生活も違う子ども・若者です。小学1年生から大学生、社会人まで、初めて会う人ばかりでしたが、「未来の明石のまちづくりに関心がある」という思いは同じでした。

最初の会議では、緊張している人もいましたが、フルーツバスケットやじゃんけん列車、他己紹介などを通して、少しずつお互いのことを知り、話しやすい雰囲気をつくっていきました。

そして、これから一緒に話し合っていくために、みんなが安心して意見を言えるように、私たちは自分たちで「話し合いのルール」を決めました。

それが、次の3つの約束です。

**たくさん
おしゃべり
しよう**

**いろんな人の
意見を聞こう**

**お互いに
お手伝いしよう**

この3つは、誰かに決められたものではなく、私たち自身が「こうだったら話しやすいよね」と話し合っただけで決めたものです。

この約束があったからこそ、年齢の違いや立場の違いをこえて、安心して意見を出し合うことができました。

2. 今の明石のまちについて話し合いました

私たちは、計画をつくる前に、まず「今の明石ってどんなまち？」というところから話し合いを始めました。年齢も学校も違う私たちが集まったからこそ、見えている景色や感じていることも違って、その違いを出し合うことが大切だと思ったからです。

(1) 明石の「好きなところ」「いいところ」

◆ 海・自然・食べ物の豊かさ

- 「海が近くて、魚がいっぱいおいしい」
- 「明石焼、あなご、たい、たこ…ご当地グルメが好き」
- 「海の景色がきれい。大蔵海岸からの眺めが好き」
- 「山や自然もあって、虫取りや探検ができる場所がある」

▶ 小学生から若者まで、海と食べ物の魅力は共通していました。

◆ 公園や遊べる場所がある

- 「公園がいっぱいあって好き」
- 「ボールが使える場所があるのがいい」
- 「明石公園でイベントが多くて楽しい」

◆ 図書館や駅前の便利さ

- 「図書館が駅のすぐ近くにあって便利」
- 「JRと山電の両方があってアクセスがいい」
- 「駅前がきれいになって、ピオレも楽しい」

◆ 人のあたたかさ・地域の雰囲気

- 「やさしい人が多い」
- 「地域の行事が多くて、交流がある」
- 「こどもへの支援が厚い。医療費が無料なのが助かる」

▶ 年齢が上がるほど、暮らしやすさ・支援の手厚さを感じている声が多くありました。

(2) 明石の「気になるところ」「もっとこうだったらいいな」

良いところと同じくらい、改善してほしいところもたくさん出ました。

◆ 安全・安心に関する声

- 「高架下をもっと明るくしてほしい」
- 「信号を増やしてほしい」
- 「防災のイベントや避難の仕方をもっと知りたい」

◆ 遊び場・居場所の不足

- 「共用ゲームができるところがほしい」
- 「ユーススペースが人気で席がないことがある」
- 「室内で遊べる場所がほしい」
- 「ゲームセンターや映画館をもっとあったらいい」

◆ 公園・環境に関する声

- 「遊具が少ない公園がある」
- 「公園の木や植物をもっと増やしたい」
- 「海のゴミを減らすイベントをしたい」
- 「魚や生き物がもっと増える海にしたい」

◆ 交通・移動に関する声

- 「バスの本数を増やしてほしい」
- 「駅が混雑」
- 「西側の地域はお店が少なく不便」

◆ 多様な人が過ごしやすいまちに

- 「障害のある人と一緒に遊べる場所がほしい」
- 「外国の人と交流できるイベントがほしい」

(3) 話し合いを通して見えてきたこと

年齢が違くと、見えている明石の姿も違いました。でも、話し合いを重ねる中で、共通している思いがあることに気づきました。

安心して
過ごしたい

自分の
居場所がほしい

もっと明石の
魅力を知って
ほしい・広めたい

- ▶ 「好き」と「気になる」の両方を出し合ったことで、私たちは、明石のまちの“今”を、こども・若者の視点でしっかり見つめることができました。
この気づきが、次の項で決めた基本理念につながっていきます。

3. 私たちが目指したい明石の姿(基本理念)を決めました

私たちは、明石のまちの「今」を見つめたあと、その時に出た意見も振り返りながら「これからの明石がどうなってほしいか」を考えるために、一人ひとりが思っている理想の姿を出し合いました。

最初は、身近な願いや思いから始まりました。

(1) こんな明石になったらいいな

◆ 安全・安心に関する願い

- 「夜道が暗いから、もっと明るくしてほしい」
- 「駅から家までの道がこわい。安心して歩けるようにしてほしい」
- 「交通事故が多いニュースを見ると不安になる」
- 「防災イベントをしてほしい」
- 「小児の夜間救急に対応している病院が少ない」
- 「スクールガードさんがいてくれると安心する」
- 「防災キャンプをしたい」
- 「海のゴミを減らすイベントをしたい」

◆ 居場所・遊び場に関する願い

- 「中高生が自由に集まれる場所がほしい」
- 「ユーススペースが人気で席がない。
新しいユーススペースがほしい」
- 「室内で遊べる場所がほしい」
- 「ボールが使える大きな公園がほしい」
- 「夏に涼めるスペースがもっとほしい」
- 「いろいろな年齢の人が話せるスペースがほしい」
- 「押しカフェがほしい」
- 「かわいい食べ物があるこども食堂がほしい」
- 「こども食堂でみんなで作って、みんなで食べたい」

◆ 学び・学校に関する願い

- 「不登校の子への理解を深めてほしい」
- 「先生方の意識を変えてほしい」
- 「ふつうの“学校”ではない、学びの多様化した学校がほしい」
- 「習い事の支援をしてほしい」
- 「高校進学へのお金の支援がほしい」
- 「スマホで図書館の本を読みたい」
- 「図書館の返却をアプリでできるようにしてほしい」

◆ まちの魅力・文化に関する願い

- 「明石の海の魅力をもっと伝えたい」
- 「海の特産物を売る場所を増やしてほしい」
- 「小さな水族館やタッチプールがあったらいい」
- 「明石の海の生き物をもっと知りたい」
- 「花火のお祭りがあったらいい」
- 「日本最大級の音楽フェスをしたい」
- 「ドームでライブができるようにしてほしい」
- 「観光客をもっと増やしたい」
- 「世界中から注目される明石になってほしい」

◆ 多様性・つながりに関する願い

- 「障害のある人と一緒に遊べる場所がほしい」
- 「外国の人と交流できるイベントがほしい」
- 「家から出られる人も出られない人も声を聴けるようにしたい」
- 「いろいろな人が笑顔で話し合えるまちにしたい」
- 「自分の困っていることを一緒に解決してくれる場所がほしい」

(2) 次に「どうしてそう思うのか」を深く考えました

これまでに出された意見について「どうしてそう思ったのか」「どんな気持ちがあるのか」を話し合いました。話し合いの中では、次のような理由や思いが出てきました。

明石の海の魅力が、十分に伝わっていないと感じること

経済的な理由で、習い事や体験の機会が限られていると感じること

安心して過ごせる居場所が必要だと感じることに

▶ こうした理由や気持ちを確かめながら、意見の背景にある思いを整理していきました。

(3) たくさんの意見を重ね合わせて、 ひとつの理念にたどり着きました

安全であること、安心できること、自分の声が届くこと、実現につながることを。

どれか一つではなく、全部がそろってこそ、私たちが望む明石になるという思いが強くなっていきました。

そして、何度も言葉を考え直しながら、私たちは次の基本理念にたどり着きました。

(4) 私たちが決めた基本理念

**みんなが安全・安心で、
自分たちの声が尊重され、
実現できるまちあかし**

この言葉には、誰か一部の人だけではなく「こどもも若者も、大人も、高齢者も、みんなが大切にされる明石になるように」という願いが込められています。

4. 基本理念を実現するための3つの柱を決めました

私たちは、第3項で決めた基本理念「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまちあかし」を実現するために、どんなことが必要なのかを考えました。

その際、こども・若者会議で出た意見だけでなく、市長・副市長と一緒に学校（小中学校・高校・大学）に赴き実施したワークショップで集めた1,608件の声やアンケート（小学生・中高生・若者）で集まった15,793件の声も分析し、会議での意見と照らし合わせながら整理していきました。

アンケートの結果は、会議で出た意見と重なる点が多く、「こども・若者が今、大切にしたいと思っていること」について世代をこえて共通するキーワードが見られました。

(1) アンケートで特に多かった声

① 安全・安心に関する声

アンケートでは、どの年代でも「安全・安心」に関する回答が多く、会議での意見と強く一致していました。

- 「夜道が暗くてこわい」
- 「通学路の交通安全をもっと強化してほしい」
- 「災害のときにどうすればいいか不安」
- 「防犯カメラや街灯を増やしてほしい」

▶特に中高生では、「帰宅時の不安」や「駅周辺の安全」に関する回答が多く、会議でも同じ意見が多数出ていました。

▶小学生では、「公園で安全に遊びたい」「見守りがあると安心」といった声が多くました。

② 居場所・つながりに関する声

アンケートでは、「家でも学校でもない、安心して過ごせる居場所がほしい」という声が多く、会議での議論と重なる点がありました。

- 「静かに過ごせる場所がほしい」
- 「中高生が自由に集まれる場所が少ない」
- 「ユーススペースが混んでいて使えないことがある」
- 「悩みを相談できる場所がほしい」
- 「人とつながれる場所がほしい」

▶ 中高生アンケートでも、居場所に関する声が見られました。

▶ 若者アンケートでは、「相談できる大人がほしい」「孤立しない環境がほしい」という声が多くありました。

③ 声が届く仕組みに関する声

アンケートでは、自分の意見が社会やまちづくりに届いているか分からないと感じる回答が一定数あり、会議で出た意見とも重なる部分がありました。

- 「意見を言える場所がほしい」
- 「SNSで意見を届けられるようにしてほしい」
- 「意見がどうなったか教えてほしい」
- 「少数意見も大切にしてほしい」

▶ 特に若者アンケートでは、自分の意見がどのように反映されているのかわかりにくいと感じる回答が見られました。

(2) アンケートと会議の意見を重ね合わせて、 3つの柱を整理しました

会議で出た意見とアンケートの分析結果を照らし合わせると、複数の年代に共通する大切な視点が見られました。

それは、「命や安全が守られていること」「安心して過ごせる居場所があること」「自分の声が尊重され、実現につながる」という3つの視点です。

これらは、会議での議論だけでなく、アンケートで寄せられた15,000件を超えるこども・若者の声の中にも、共通する傾向として見られました。そのため、私たちはこの3つの視点をもとに、基本理念を実現するための「3つの柱」を決めました。

(3) 私たちが決めた3つの柱

柱1

あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり

▶ アンケートでも「安全・安心」に関する声が多く見られました

柱2

人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり

▶ アンケートでも、居場所や相談先に関する不安の声が見られました

柱3

**少ない意見でも平等に伝えられる場所や、
受け止められる権利を確保する仕組みづくり**

▶ アンケートでも、意見が届いているか分かりにくいと感じる声が見られました

(4) アンケートと会議の両方の声をもとに、柱を確定しました

この3つの柱は、こども・若者会議の議論だけでなく、アンケートで寄せられた声の中にも共通する視点として見られ、明石のこども・若者が大切にしていることがうかがえました。

そのため、私たちはこの柱を、基本理念を実現するための考え方として整理しました。

5. 3つの柱に基づいて取り組むべき具体的な施策を考えました

私たちは、第4項で決めた3つの柱をもとに、「明石がこうなってほしい」という思いを、実際の取組（施策）としてどのように形にできるかを話し合いました。

ここでまとめている施策は、こども・若者会議での議論だけでなく、学校でのワークショップやアンケートで寄せられた15,000件を超えるこども・若者の声を分析し、それらを重ね合わせて整理したものです。

施策は、「してほしいこと」だけでなく、話し合いを通して大切だと考えたこととして整理しています。

柱1

あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり

この柱は、アンケートや会議の中で多くの意見が寄せられたテーマの一つです。「安全・安心」は、複数の年代で共通して大切にされている視点として見られました。

① 安全・安心なまちづくり

夜道や通学路の 安全・防犯対策

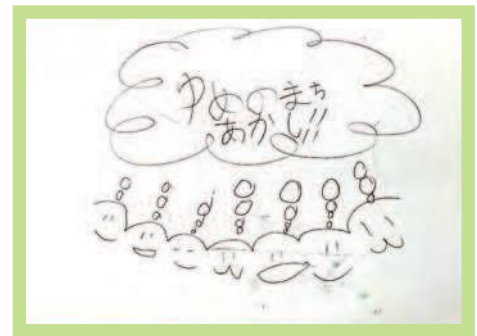
- 「夜道が暗くてこわい」
- 「駅から家までの道が不安」
- 「横断歩道を増やしてほしい」
- 「カーブミラーの設置」

交通安全の強化

- 「自転車・歩行者・車の道を分ける」
- 「スピードを出しにくい道路設計」
- 「子どもが渡りやすい横断歩道の整備」

防災への備えと減災の取組

- 「避難の仕方をもっと知りたい」
- 「津波が来ても大丈夫な場所がほしい」



② 快適で自然にやさしい生活環境づくり

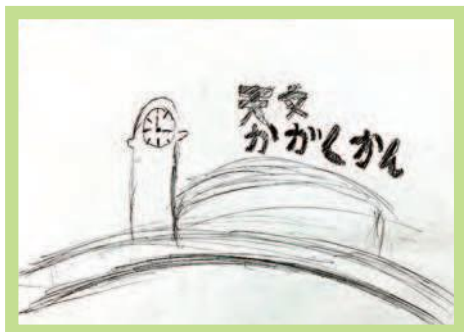
公園の改善

- 「遊具が少ない」「手洗い場が必要」
- 「ボール遊びができる場所がほしい」
- 「小さい子が安全に遊べる柵がほしい」
- 「自然と調和した公園の整備」



自然環境の保全と まちの美化

- 「海のごみを減らしたい」
- 「海の生き物を守りたい」
- 「花や緑を増やしたい」
- 「まちを清潔できれいに」



③ 情報伝達や移動がしやすい環境づくり

情報アクセスの改善

「公共施設での Wi-Fi 整備」

「図書館のデジタル化
(アプリ返却、電子書籍など)」

「行政からの情報発信の強化」

「市民から行政への
手軽な通報手段の整備」

移動のしやすさ

「バスの本数やルート改善」

「自転車道の整備」

「駅周辺の安全対策」



④ 健康と生活を支える基盤づくり

相談体制の充実

「夜に相談できる場所がほしい」

「気持ちを話せる人がほしい」

生活支援

「食の支援」

「経済的な不安への相談」

「健康に関する学びの機会」

柱2

人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり

アンケートや会議の中で、「居場所がほしい」という声が多く見られ、複数の年代に共通する視点として挙げられていました。

① 安心して過ごせる居場所づくり

多様な居場所の整備

- 「静かに過ごせる場所がほしい」
- 「中高生が自由に集まれる場所が少ない」
- 「ユーススペースが混んでいて使えない」
- 「働く人が交流できるコワーキングスペースがほしい」
- 「不登校の子が安心して過ごせる場所」



夜間・休日の居場所

- 「夜に行ける場所が少なく、安心して過ごせる場所がない」
- 「休日に安心して過ごせる場所がほしい」

② 体験や交流の機会づくり



こども・若者が 企画するイベント

「音楽フェス
(屋外で実施する場合は近隣への配慮をする)」

「文化祭」

「交流イベント」

「海の魅力を伝える企画」

「地域の名産品を利用した
交流イベント」

「企画したイベントを実行する
こども・若者グループの創設」



スポーツ・遊びの場

「ボール遊びができる場所」

「室内で遊べる場所」

「パブリックビューイング
会場・観戦スペース」

③ 学びと支え合いの環境づくり

学習支援

「夜も使える自習スペース」

「勉強を教えてくれる場」

「自習スペースの増設」



多様な学び

「多様な学び方を選べる環境」

「教える側の研修・支援の充実」



④ 地域とつながる仕組みづくり

地域活動への参加

「まちの魅力発信」

「観光イベントへの参加」

「清掃活動や環境保全活動」

「地域の出会い・交流の場づくり」



柱3

少ない意見でも平等に伝えられる場所や、
受け止められる権利を確保する仕組みづくり

アンケートでは、「意見が届いているか分からない」「反映されていると感じにくい」といった声が見られ、会議で出た意見とも重なる部分がありました。

① 声を聴き、反映する仕組みづくり

意見を出しやすい環境

「SNS で意見を届けられる仕組み」

「気軽に参加できる意見募集」

「世代をこえた対話の場」



意見の見える化

「意見がどうなったか教えてほしい」

「出した意見をトラッキング
できる仕組みがほしい」

「意見の処理状況や
進捗を知らせてほしい」



② 相談場所と伴走支援の充実

相談しやすい窓口

「オンライン相談」

「出張相談」

「若者向け相談窓口」

継続的な支援

「必要な人に寄り添い続ける伴走支援」

「医療・福祉・学校との連携」

③ 多様性と人権を大切にする取組

理解を深める学び

「人権・多様性に関する教育」

「当事者の声を聴く機会の
さらなる創出」

「多文化交流イベント」

差別やいじめへの対応

「学校外での相談体制の強化」

「早期発見・早期対応」

④ 挑戦と自己実現を支える取組

やりたいことを 応援する仕組み

「資格取得の支援」

「チャレンジを応援する制度」

「メンターとのつながり」



こども・若者の声で明石の未来を変えて、動いていきます

ここにまとめた施策は、こども・若者会議での話し合いや、アンケートで寄せられた多くの声をもとにまとめられたものです。

私たちの声がきっかけとなって、明石のまちが変わっていく。そうした積み重ねで、明石の未来が動いていくと考えます。

この計画は、大人たちが受け止めて実行していきませんが、自分たちも一緒に、これからも大人と対話しながら、明石の未来を創っていきます。



みんなが「安全・安心で自分たちの声が尊重され、実現できるまちおかし」

柱1 あらゆる危険から命が守られ
自然と共に快適に暮らせる環境づくり

- ①安全・安心なまちづくり
- ②快適で自然にやさしい生活環境づくり
- ③情報伝達や移動がしやすい環境づくり
- ④健康と生活を支える基盤づくり



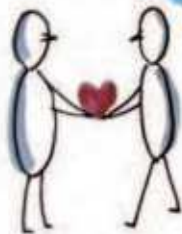
柱2 人と人がつながり、笑顔で、
時に逃げられる居場所づくり

- ①安心して過ごせる居場所づくり
- ②体験や交流の機会づくり
- ③学びと支え合いの環境づくり
- ④地域とつながる仕組みづくり



柱3 少ない意見でも平等に伝えられる場所や
受け止められる権利を確保する仕組みづくり

- ①声を聴き、反映する仕組みづくり
- ②相談場所と伴走支援の充実
- ③多様性と人権を大切に取る取組
- ④挑戦と自己実現を支える取組



6. まとめ

私たちが考えた未来の明石を、大人たちと一緒につくっていくために

私たちは、市の公募に応募して集まったこども・若者として、これまで何度も話し合いを重ね、「明石がこれからどんなまちになってほしいか」を自分たちの言葉で考えてきました。

第2項では、今の明石のまちについて、好きなところも、気になっているところも、年齢や立場をこえて出し合いました。

第3項では、その思いや願いを重ね合わせて、「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまちあかし」という基本理念を決めました。

第4項では、この理念を実現するために必要なことを整理し、アンケートで寄せられた多くの声とも照らし合わせながら、3つの柱をまとめました。

第5項では、その柱をもとに、明石の未来に本当に必要だと思う具体的な施策を考えました。

(1) この計画は、こども・若者の声をもとにした 「私たちの計画」です

- 夜道がこわい
- 居場所が足りない
- 自分の声が届かない
- 自然を守りたい
- もっと明石の魅力を知ってほしい
- 困ったときに相談できる場所がほしい

こうした思いは、会議に参加した私たちだけでなく、アンケートで寄せられた多くのこども・若者の声とも一致していました。だからこそ、この計画は、明石に住むこども・若者の「本当の声」をもとにつくられた計画です。

(2) そして、この計画は、大人がしっかり引き取って 実現していくものです

私たちは、計画をつくる役割を担いましたが、この計画を実行していくのは大人たちです。

この計画が実現することで、私たちの声がまちづくりにつながり、未来の明石がより良いまちになっていくと信じています。

大人たちがこの計画を責任をもって実施し、必要に応じて見直しながら進めていくことで、基本理念である「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまちあかし」に近づいていくと考えています。

(3) 私たちは、これからも明石の未来に関わり続けます

この計画づくりを通して、「自分たちの声がまちを変える力になる」ということを実感しました。これからも、「声を出し続けること」「まちのことを考え続けること」「こども・若者として関わり続けること」を大切にしていきたいと思っています。

そして、大人たちと一緒に、誰一人取り残されない、こども・若者が自分らしく生きられる明石をつくっていきたいと考えています。

おわりに

この計画は、私たちこども・若者が考えた未来の明石の姿です。そして、大人たちが責任をもって実施していくことで、この計画は「言葉」から「現実」へと動き出します。

私たちは、この計画が、未来の明石をより良くするための第一歩になることを願っています。

こども・若者会議メンバー 一覧表

秋	山	叶	希	高	見	柚	貴
飯	塚	琴	子	高	光	奏	
伊	賀	彩	乃	高	光	遙	人
井	上	諒	一	中	川	遥	
岩	城	志	音	中	村	愛佑美	
魚	野	愛	実	新	野	龍之介	
奥	田	彩	世	西	村	俊哉	
柏	木	惺	葉	尾	藤	可伶	
片	嶋	悠	貴	益	山	小姫	
川	井	優	翔	松	尾	匠真	
川	中	美	駒	松	岡	実	
岸	川	リノン		溝	手	菜緒	
木	谷	龍	成	湊	川	新	
北	野	萌	音	村	上	結愛	
木	村	百	花	森	田	眞一朗	
後	藤	満	天	吉	川	愛乃	
芝	本	愛	奈	吉	川	裕斗	
園	山	爽					

※氏名は五十音順で掲載しています。

※掲載にあたっては、本人または保護者の承諾を得た方のみ掲載しています。

第2章

こども・若者が考えた計画を、 市の責任で実現していくために

本計画は、明石市に住み、学び、働くこども・若者が、自らの声をもとに、未来の明石のまちについて考え、まとめたものである。

明石市は、本計画を、こども基本法第10条に基づく「市町村こども計画」として位置づけ、ここに示された基本理念、施策展開の柱及び具体的施策について、市の責任において実施していく。

市は、関係部局が連携しながら施策を推進するとともに、こども・若者の意見を引き続き聴きながら、施策の実施状況を踏まえた評価及び見直しを行う。

本計画は、こども・若者の声を起点とし、市がその声を受け止め、責任をもって実行していくための計画である。

1 計画の位置づけ

本計画は、国が定める「こども大綱」及び兵庫県が策定する関連計画を勘案し、本市のまちづくりの総合計画である「あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）」を上位計画として策定する。

2 計画期間

計画期間は、2026年度から2029年度までの4年間とし、社会状況や施策の進捗を踏まえ、必要に応じて見直しを行う。

3 明石市こども・若者計画における基本理念・施策展開の柱及び具体的施策

本計画は、こども・若者会議における議論や、学校等でのワークショップ、アンケート等を通じて集められたこども・若者の声を踏まえ、明石市が市の責任において策定・実施する行政計画である。

本計画において、市が実施する施策は、以下に掲げる基本理念、施策展開の柱及び具体的施策に基づくものとする。

(1) 基本理念

「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち あかし」

本計画は、すべてのこども・若者が、命や暮らしの安全が守られ、安心して自分らしく過ごすことができるとともに、自らの声が尊重され、社会やまちづくりに反映される明石の実現を目指すものである。

(2) 施策展開の柱

基本理念を実現するため、次の3つの柱に基づき施策を展開する。

- 柱1 あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり
- 柱2 人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり
- 柱3 少ない意見でも平等に伝えられる場所や、受け止められる権利を確保する仕組みづくり

(3) 具体的施策

(2)の施策展開の柱に基づき、明石市は次の具体的施策に取り組む。

柱1

あらゆる危険から命が守られ、自然と共に快適に暮らせる環境づくり

① 安全・安心なまちづくり

- 夜道や通学路の安全・防犯対策
- 交通安全の強化
- 防災への備えと減災の取組

② 快適で自然にやさしい生活環境づくり

- 公園の改善
- 自然環境の保全とまちの美化

③ 情報伝達や移動がしやすい環境づくり

- 情報アクセスの改善
- 移動のしやすさ

④ 健康と生活を支える基盤づくり

- 相談体制の充実
- 生活支援

柱2

人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくり

① 安心して過ごせる居場所づくり

- 多様な居場所の整備
- 夜間・休日の居場所

② 体験や交流の機会づくり

- こども・若者が企画するイベント
- スポーツ・遊びの場

③ 学びと支え合いの環境づくり

- 学習支援
- 多様な学び

④ 地域とつながる仕組みづくり

- 地域活動への参加

柱3

少ない意見でも平等に伝えられる場所や、
受け止められる権利を確保する仕組みづくり

① 声を聴き、反映する仕組みづくり

- 意見を出しやすい環境
- 意見の見える化

② 相談場所と伴走支援の充実

- 相談しやすい窓口
- 継続的な支援

③ 多様性と人権を大切にする取組

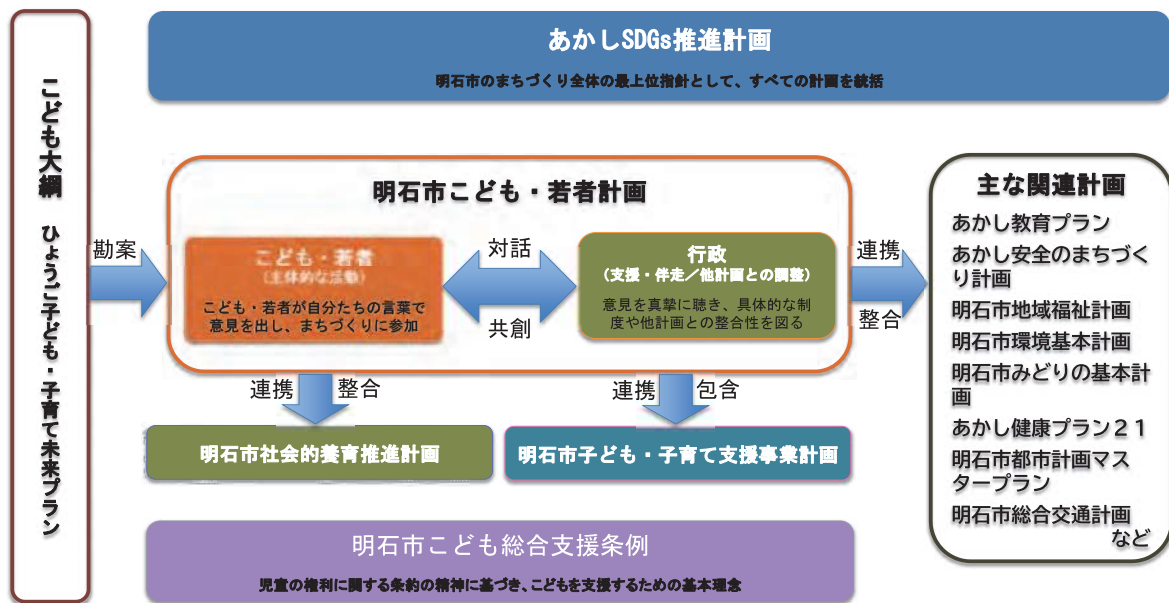
- 理解を深める学び
- 差別やいじめへの対応

④ 挑戦と自己実現を支える取組

- やりたいことを応援する仕組み

4 計画の推進体制と関連計画等との一体的運用

本計画は、すべての子ども・若者が、日本国憲法、子ども基本法及び児童の権利に関する条約の精神に則り、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人として等しく健やかに成長することができるよう、心身の状況や置かれている環境等にかかわらず、すべての権利の保障が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができるよう、明石市の子ども施策全体を総合的に推進するための「市町村子ども計画（子ども基本法第10条）」である。本計画に掲げた子ども・若者の声（具体的施策）を着実に実現するため、市は本計画を全庁的な指針（ビジョン）とし、「明石市子ども総合支援条例」を根本に据え、「明石市子ども・子育て支援事業計画」等の関連個別計画群と一体的かつ連動的に運用する（なお、子ども・子育て支援事業計画については、将来的には本計画に包含し、一体的に運用していくものとする）。また、ヤングケアラーや社会的養護を必要とする子ども等の課題については、条例等の重層的な体制により誰一人取り残すことなく確実に対応する。



本市では、子ども・若者政策の総合的な推進にあたり、あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）（以下「総合計画」という。）に基づき、総合計画に示した施策の展開方向との整合性を図りながら推進体制を整備する。また、施策の実施状況を評価（Check）し、改善（Action）につなげることで、マネジメントサイクル（PDCAサイクル）による効果的な推進を図る。

さらに、明石市社会福祉審議会児童福祉専門分科会や子ども・若者会議をはじめとする市民目線での意見・提言については、本市として次年度以降の施策の推進に活用する。

Plan 計画

- 計画における施策や取組と合わせて目標を設定
- 具体的な取組の更新
- 次期計画の策定

Do 実行

- 計画内容を踏まえ、各主体との連携・共創で実行（具体的な取組の実施）

Action 改善

- 評価の結果を踏まえ、具体的な取組の具直しや改善

check 確認・評価

- 具体的な取組の実施状況の確認による点検・評価
- 予算編成等における事業評価



明石市社会福祉審議会児童福祉専門分科会へ報告

参考資料

計画の策定に係る状況

(1) こども・若者会議

計画策定に際しては、一般公募した「こども・若者会議」メンバーが会議において、それぞれ意見を出し合うとともに、学校でのワークショップやアンケートを通して、より多くのこども・若者の声を聴きながら、こども・若者自身により検討・策定が進められました。

①メンバー構成

市内在住または在学・在勤の6歳から29歳までのこども・若者37名。
(小学生14名、中学生8名、高校生6名、大学生3名、社会人6名)

②ワーキンググループ

高校生以上の会議メンバーから構成される「ワーキンググループ」を設置し、計画策定に向けた全体スケジュールをはじめ、会議内容の検討及びワークショップの進行、アンケート調査の対象・設問の検討、市長・副市長による学校等でのワークショップへの同行、こども・若者会議PR動画の作成など、会議の中心的な役割を担いました。

③会議の開催状況【21ページ】

こども・若者会議：8回（令和7年7月～令和8年2月）

(2) 学校等でのワークショップの実施【22ページ～29ページ】

市内の小学校4校、中学校2校、高校・高専2校、県立大学1校に市長、副市長がワーキンググループメンバーとともに直接出向き、ワークショップ形式で1,608件の意見を集めました。

(3) アンケートの実施【30ページ～54ページ参照】

市内教育機関（小中学校、高校・高専、大学）を通じたアンケートの実施に加え、ワーキンググループの提案で、市ホームページのほかに市内商業施設へのポスター掲示、インスタグラムへの広告掲出を行ったほか、障害児、不登校児など意見を出しにくいこども・若者については、平素から関わりを持つ市担当部署等を通じて実施した結果、15,793件の意見が集まりました。

(4) パブリックコメント

市民の意見や対案を計画に反映させるため、令和8年1月16日から2月16日の間、明石市こども・若者計画（素案）に対するパブリックコメントを実施し、6人から8件の意見が寄せられました。こども・若者会議での検討の経過

こども・若者会議での検討の経過

開催日	テーマ	内容
第1回 令和7年7月5日	『わたしたちの“あかし”はこんなまち』	自分たちが暮らす明石のまちの現状について意見を出し合った
第2回 令和7年8月3日	『こんな“あかし”になったらいいな』	自分たちが望む明石の将来像について意見を出し合うとともに、さらなる意見聴取のための対象、方法について考えた
第3回 令和7年8月31日	『「こんな“あかし”になったらいいな」をもっと深く考えよう』	第2回会議で出た意見について、さらに深く掘り下げて検討し、基本理念が決まった
第4回 令和7年10月4日	『理想の“あかし”になるために何が必要なのか考えよう』	第3回会議で決まった基本理念を実現するために何が必要かを検討し、施策展開の柱を考えた
拡大版 令和7年10月26日		新たに一般公募したこども・若者とコーディネーターとして大阪・関西万博クラゲ館プロデューサー中島さち子氏を迎え、これまでの取組を振り返るとともに、ワークショップを実施し、これまでの意見をさらに深めた
第5回 令和7年11月29日	『“明石市こども・若者計画”の基本理念と施策展開の柱を決めよう』	第4回会議で検討した基本理念及び施策展開の柱をもとに、ワークショップやアンケートの結果を踏まえ、“明石市こども・若者計画”の基本理念と施策展開の柱を設定した。
第6回 令和8年1月10日	『“明石市こども・若者計画”の施策展開の柱につながる具体的な施策について考えよう』	これまでの会議で出た意見などを参考に、具体的な施策について検討し、計画素案を完成させた
第7回 令和8年2月21日	『“明石市こども・若者計画”を完成させよう』	計画素案に対するパブリックコメント等での意見を踏まえ、最終的な計画案を完成させた

○ 学校等でのワークショップの実施結果

1 実施概要

(1) 対象・参加者数

① 小学校

朝霧小学校	1クラス	34名
沢池小学校	1クラス	31名
江井島小学校	1学年	111名
錦が丘小学校	1クラス	28名

② 中学校

野々池中学校	生徒会役員ほか	23名
魚住東中学校	生徒会役員ほか	13名

③ 高校

明石商業高等学校	生徒会役員ほか	14名
明石工業高等専門学校	学習チーム	23名

④ 大学

兵庫県立大学看護学部	応募者	6名
------------	-----	----

参加者合計 257名

意見総数 1,608件

(2) 実施方法

「こんな明石になったらいいな」「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち明石」をテーマに自由記述で意見を出し合い、まとめたものをグループごとに発表し、全体で共有しました。

(3) 実施期間

2025年（令和7年）10月8日から11月10日

2 ワークショップでの意見

(1) 全体傾向

カテゴリごとの意見数は別図のとおり。商業施設、インフラ・通信環境、遊び場・レジャー、教育・学校生活、公園・緑地整備、公共交通・移動手段など、日常生活に直結する課題が多く挙げられています。

(2) カテゴリートップ10の代表的意見

① 商業施設

- ・もっと店を増やしてほしい
- ・大型ショッピングモールやデパートがほしい
- ・駄菓子屋をつくってほしい

② インフラ・通信環境

- ・もっとベビーカーが通りやすいように道を整備
- ・安心して通えるような通学路をつくってほしい
- ・公共Wi-Fiを増やしてほしい

③ 遊び場・レジャー

- ・みんなが楽しめる場所がほしい
- ・遊ぶ場所を増やしてほしい
- ・イベントをもっと増やしてほしい

④ 教育・学校生活

- ・スマホなどの正しい使い方をもっと教育に入れた方がいい
- ・体育館にエアコンをつけてほしい
- ・学校にみんなで話せるようなところがほしい

⑤ 公園・緑地整備

- ・こどもから大人まで遊べる大きな公園がほしい
- ・スポーツができる公園がほしい
- ・近くにある公園でも校区外だから公園がほしい

⑥ 公共交通・移動手段

- ・バスの本数を増やしてほしい
- ・地下鉄を明石までのばしてほしい
- ・交通が発展したまち

⑦ 交流・つながり

- ・いろいろな人とコミュニケーションが取れる明石市がいい
- ・色々な人が笑顔で話し合える場所
- ・中学校に向けて、小学校と中学校の交流を増やしたい

⑧ スポーツ施設・設備

- ・バスケットゴールがほしい
- ・スポーツができる場所をつくってほしい
- ・プールをつくってほしい

⑨ 環境・美化

- ・ポイ捨てなどが無いまち
- ・地域の人たちと協力して海を掃除する
- ・ゴミが落ちてないきれいな明石にしたい

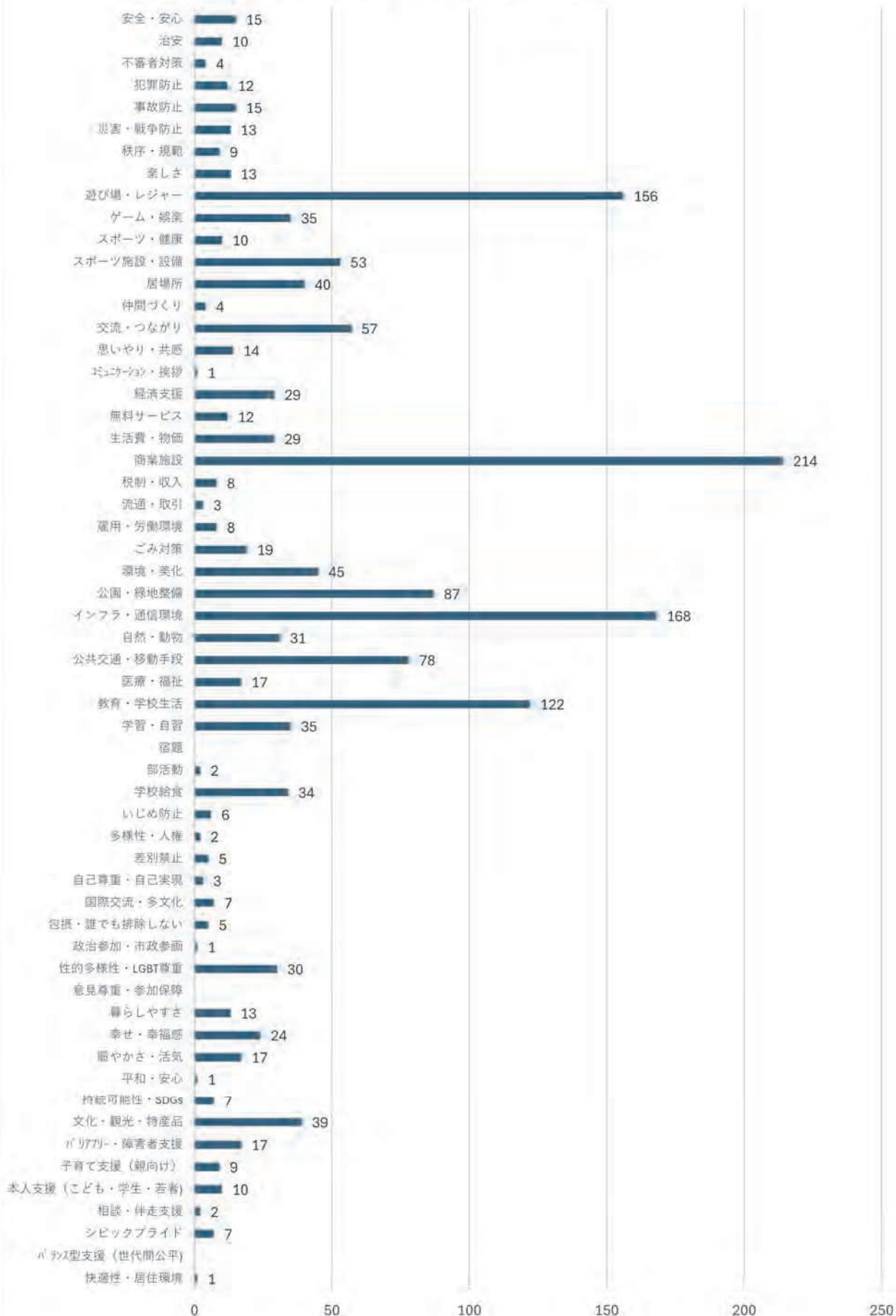
⑩ 居場所

- ・フリースペースを増やしてほしい
- ・こどもの夢を尊重してくれるこどもの居場所をつくってほしい
- ・放課後に友達と集まって遊べるスペースが近くにほしい

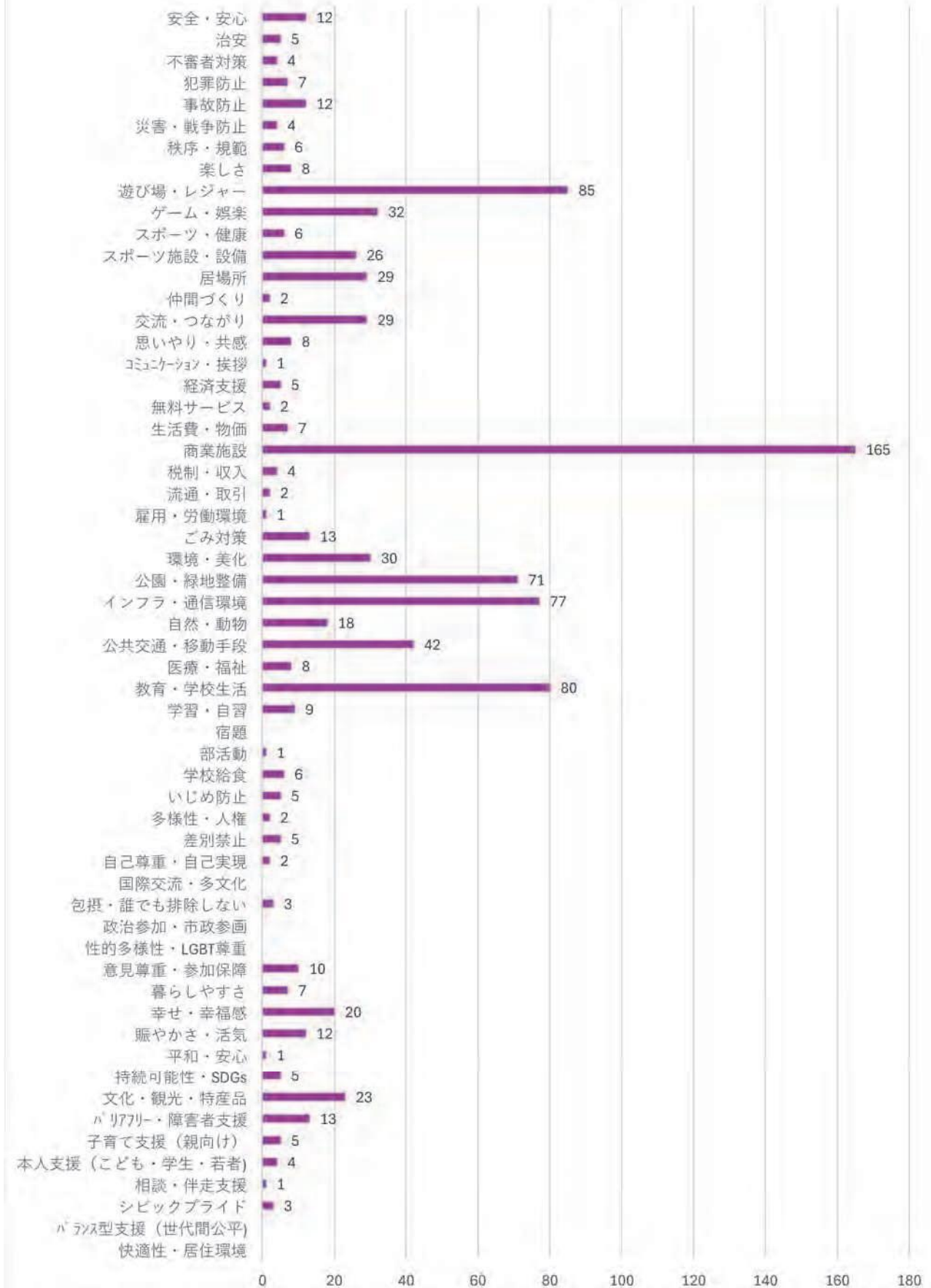
(3) 全体の傾向

- ① 遊び、交流、利便性、安全性、多様性への強いニーズがありました。
- ② 施設不足、交通不便、情報不足など、現状の課題を具体的に指摘し、改善を求める意見が多くありました。
- ③ 「みんなが幸せ」「みんなが笑顔」「みんなが安心」など、共生、幸福、安心を重視する価値観が根底に感じられます。

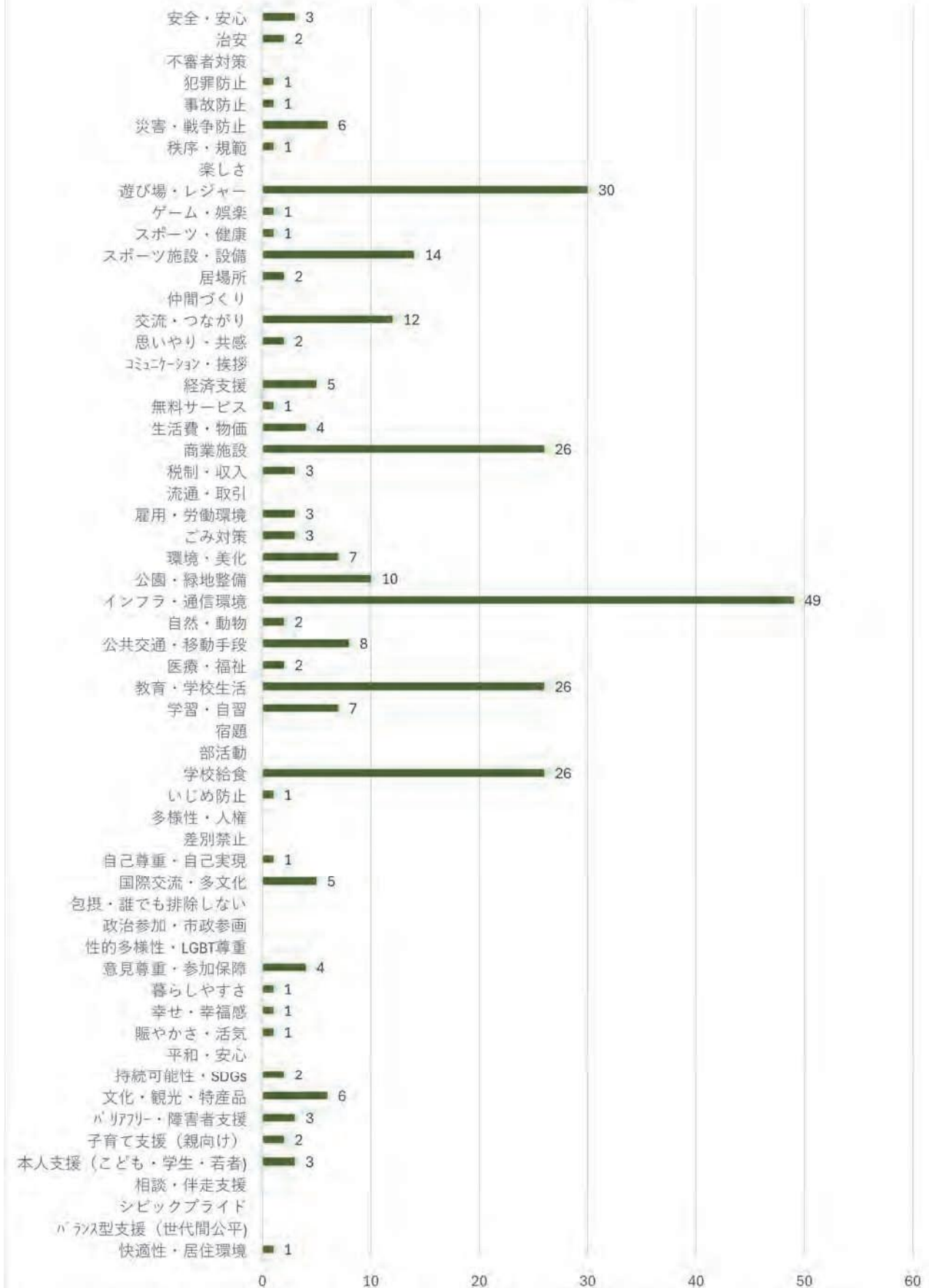
カテゴリーごと意見数



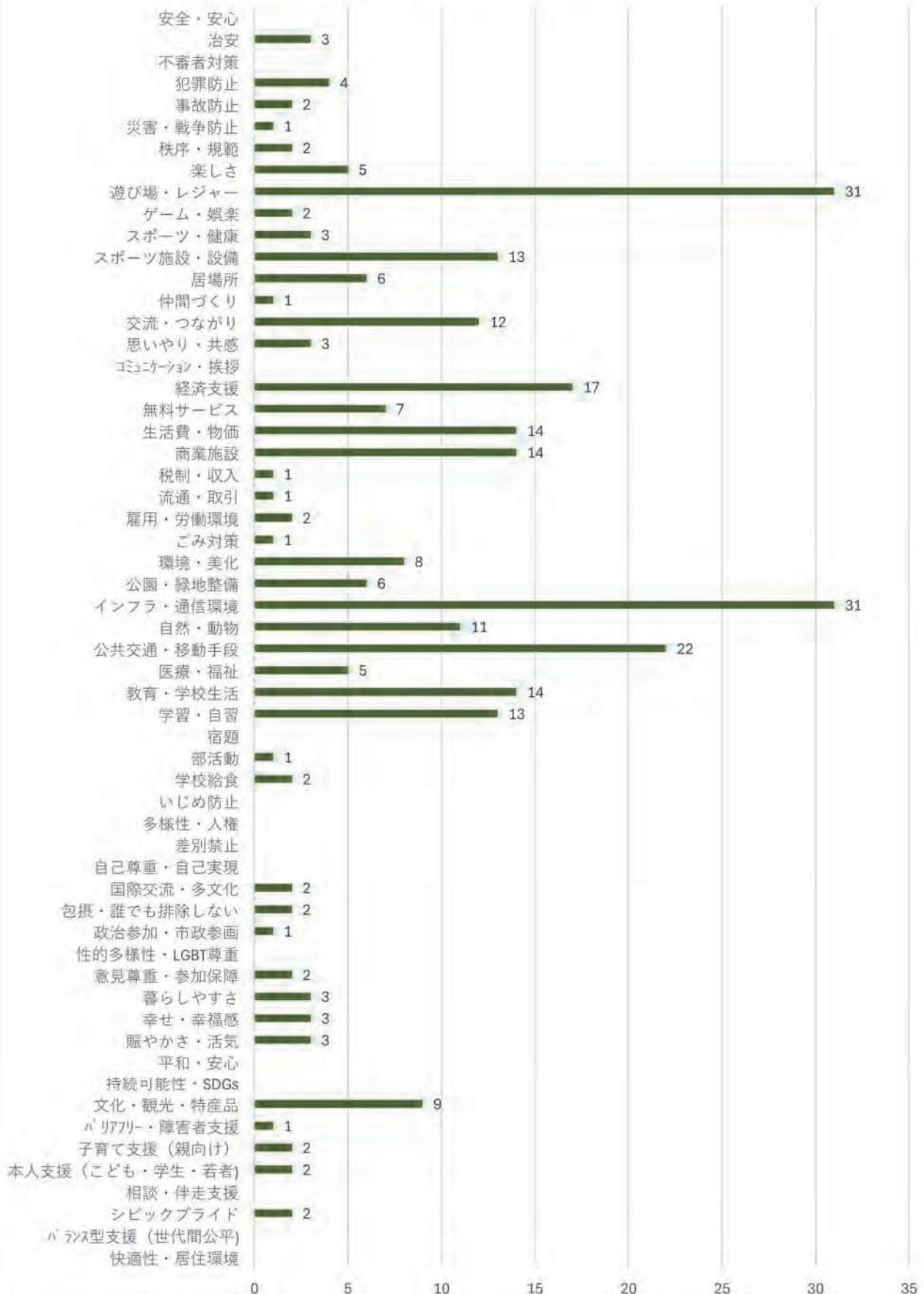
【小学校】 カテゴリーごと意見数



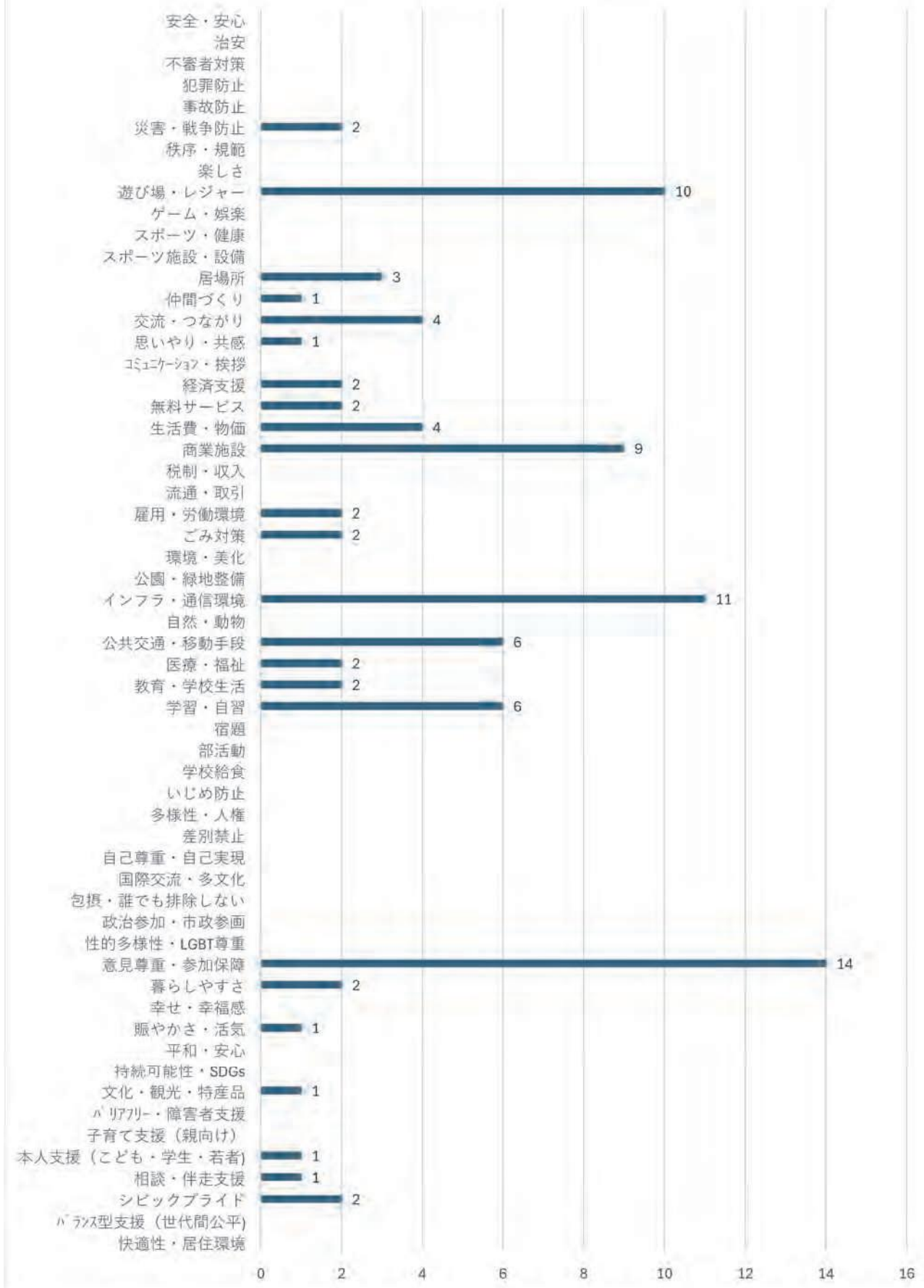
【中学校】 カテゴリーごと意見数



【高校】 カテゴリーごと意見数



【大学】 カテゴリーごと意見数



○ 小学生・中高生・若者を対象としたアンケートの実施結果

1 実施概要

(1) 対象・回答数

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 小学生（3年生から6年生） | 7,343件 |
| ② 中学生 | 5,449件 |
| ③ 高校生 | 2,599件 |
| ④ 若者（18歳から29歳） | 402件 |

回答総数 15,793件

(2) 実施方法

自由記述を含む無記名アンケート。市内の小・中学校、高校、大学を通じて児童、生徒、学生への回答を依頼するとともに、障害児（者）、不登校児、施設入所児等については所管課を通じて回答を依頼。また、若者については広報紙、ホームページ、商業施設へのポスター掲示に加え、インスタグラムへの広告掲載を行い回答の回収率向上を図った。

(3) 実施期間

2025年（令和7年）10月8日から10月31日

(4) アンケート設問（対象別）

小学生向け設問

- ① あなたが「好き」「あんしんできる」と思うばしょはどこですか？
選択肢：おうち／がっこう／おじいさん・おばあさんのいえ／ともだちのいえ／インターネット／その他
- ② さいきん、うれしかったことはありますか？
- ③ さいきん、こまっていることはありますか？
- ④ がっこうやおうちで、じぶんの思ったことを言えていますか？
選択肢：言えている／言えていない／わからない
- ⑤ こんな“あかし”になったらいいなと思うことをかいてください

中高生向け設問

- ① 自分が「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場所はどこですか？
- ② 学校や地域で「自分の意見を言える」と感じる場面はありますか？
選択肢：よくある／ときどきある／あまりない／まったくない
- ③ 最近、うれしかったことはありますか？
- ④ 最近、困っていることはありますか？
- ⑤ 困ったとき、相談できる人はいますか？
- ⑥ 自分の意見が社会やまちづくりに活かされると感じますか？
選択肢：そう思う／どちらとも言えない／そう思わない
- ⑦ 「こども・若者の声をもっと聞いてほしい」と思うことはありますか？
選択肢：強く思う／少し思う／あまり思わない／まったく思わない
- ⑧ こんな“あかし”になったらいいなと思うことを自由に書いてください

若者向け設問

- ① あなたが「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場面や場所はありますか？
- ② 地域や制度に対して「声が届いている」と感じることはありますか？

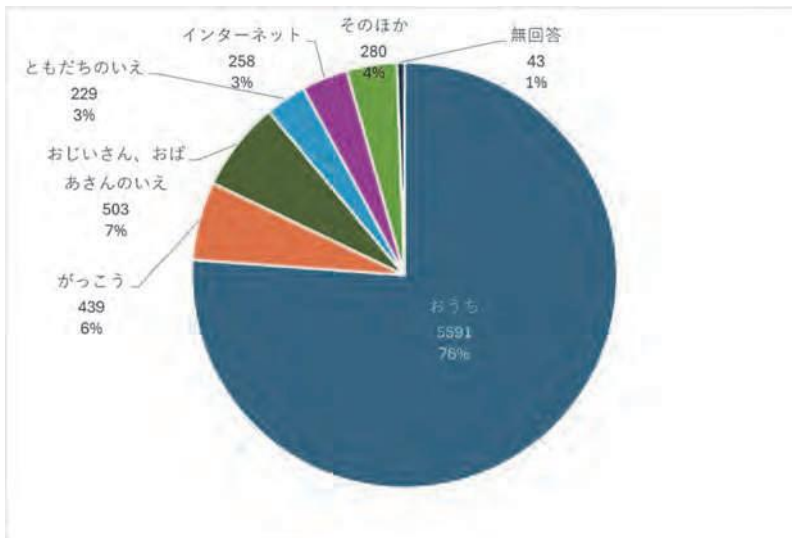
選択肢：よくある／ときどきある／あまりない／まったくない

- ③ 明石市で暮らしていてよかったと思うことは何ですか？
- ④ 明石市において、若者として感じる課題や改善してほしいことは何ですか？
- ⑤ 若者がもっと地域に関われるようにするには、どんな仕組みがあるとよいと思いますか？
- ⑥ こんな“あかし”になったらいいなと思う理想像を自由に書いてください

2 対象別回答内容

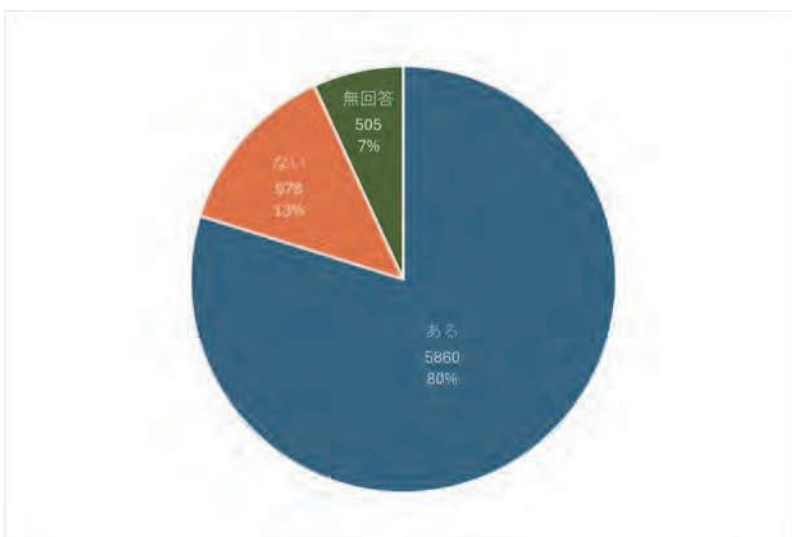
(1) 小学生

- ① あなたが「すき」「あんしんできる」と思うばしょはどこですか？



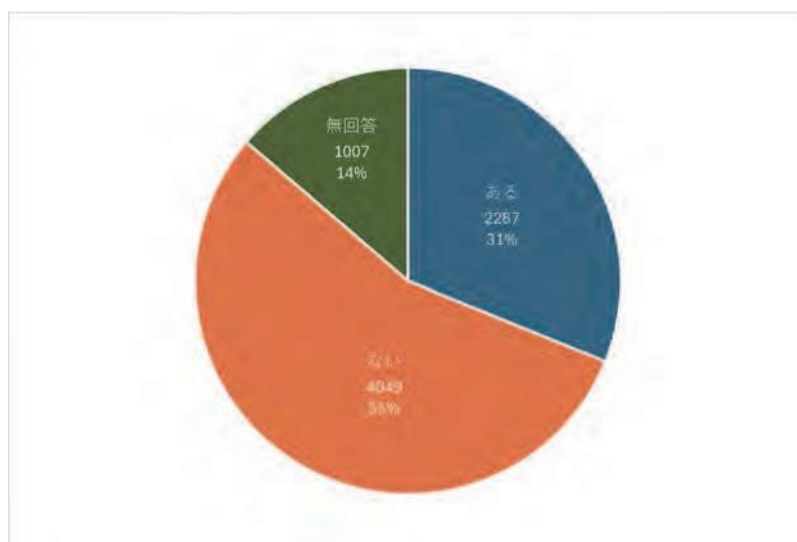
- ・「おうち」が圧倒的に多く、安心できる場所として「自宅」が最も強く認識されている。
- ・「そのほか」では、公園や図書館のほか塾などの習い事の間が挙げられている。また、少数ながら安心できる場所はないとの意見もある。

- ② さいきん、うれしかったことはありますか？



- ・「友達と遊んだ」「家族と過ごした」「テストで良い点を取った」「習い事やスポーツで成果を出した」「好きなものを買ってもらった」「イベントや旅行に行った」など、うれしかったことの内容は多岐にわたる。
- ・「友達と遊んだ」「家族と出かけた」「友達が増えた」「家族や友達に褒められた」など、人とのつながりやコミュニケーションに関する喜びが多く見られる。
- ・「逆上がりができた」「テストで100点を取れた」「習い事で合格した」「新しいことに挑戦して成功した」など、成長や達成感に関する記述が目立つ。
- ・「ゲームを買ってもらった」「好きなキャラクターのグッズを手に入れた」「新しい服や本を買ってもらった」など、物を通じたうれしさも多く見られる。
- ・「誕生日」「お祭り」「修学旅行」「運動会」「旅行」など、非日常的な出来事に関する喜びも多く記載されている。
- ・「特にない」「思いつかない」「わからない」など、うれしかったことが思い浮かばない児童も一定数存在している。

③ さいきん、こまっていることはありますか？



- ・全体としては「困りごとがない」回答が多い一方で、「困りごとがある」との回答では「学校生活・学習」「人間関係」「家庭・家族」「健康・生活習慣」など多岐にわたる。
- ・学校生活・学習
 - 授業中の困りごと（クラスがうるさい、授業に集中できない）
 - 学習の難しさ（算数や勉強が難しい、宿題が多い・難しい）
 - 発表やテストへの不安（発表ができなくなった、テストで良い点が取れない）
- ・人間関係
 - いじめ・悪口・仲間外れ
 - 友達とのトラブル（喧嘩、誘われない、無視される）
 - 孤独感や不安（1人ぼっちになる、嫌われている気がする）
- ・家庭・家族
 - 家庭内の問題（両親の喧嘩・別居、家族との関係）

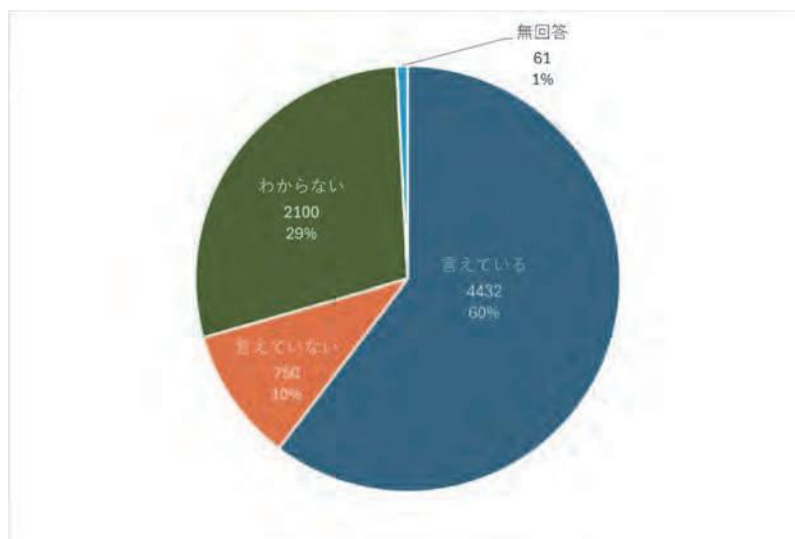
家族の健康や仕事（親の仕事が忙しい、家族が風邪）

・健康・生活習慣

睡眠・体調（寝られない、体調不良）

生活リズム（早起きできない、夜寝られない）

④ がっこうやおうちで、じぶんの思ったことを言えていますか？



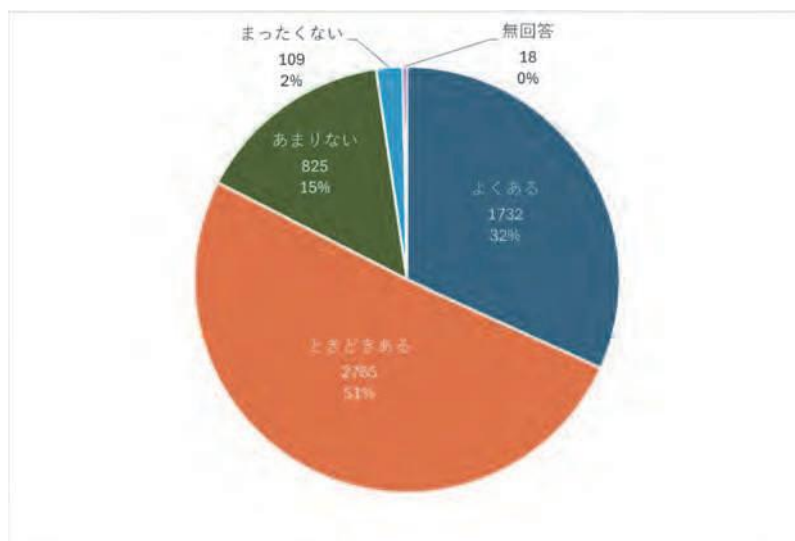
- ・「言えている」と答える児童が多いことから、学校や家庭で自分の思ったことを表現できていると感じている児童が多いと考えられる。
- ・「わからない」と答える児童も一定数存在しており、「言えている」「言えていない」のどちらかを選びきれない、もしくは自己表現の実感が曖昧な児童が多いことを示している。
- ・「言えていない」と答えた児童が1割おり、自己表現に困難を感じている、もしくは環境的な要因（家庭や学校での雰囲気、対人関係など）で発言しづらい状況にある可能性がある。

(2) 中学生

① 自分が「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場所はどこですか？

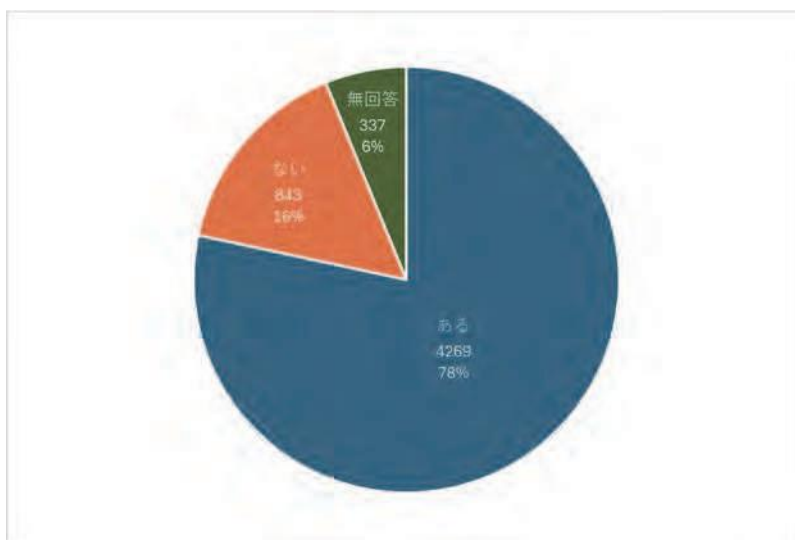
- ・「家」「自分の家」「自分の部屋」「お家」など、自宅や自分のプライベート空間が最も多く挙げられている。
- ・「学校」「教室」「部活」など、日常的に過ごす場所も多く挙げられており、「友達といるとき」「部活動のとき」「クラス」など、仲間や友人と一緒にいることで安心感や自分らしさを感じている様子が見られる。
- ・「一人の時」「一人でいられる場所」「自分の部屋」「布団の中」など、他人の目を気にせずリラックスできる空間も多く挙げられている。

② 学校や地域で「自分の意見を言える」と感じる場面はありますか？



- ・「ときどきある」「よくある」を合わせると8割以上を占めており、多くの生徒が何らかの形で意見を言える場面があると感じていることがわかるが、一方で、「あまりない」「まったくない」と感じている生徒も一定数いるため、全員が自由に意見を言える環境ではないことも伺える。

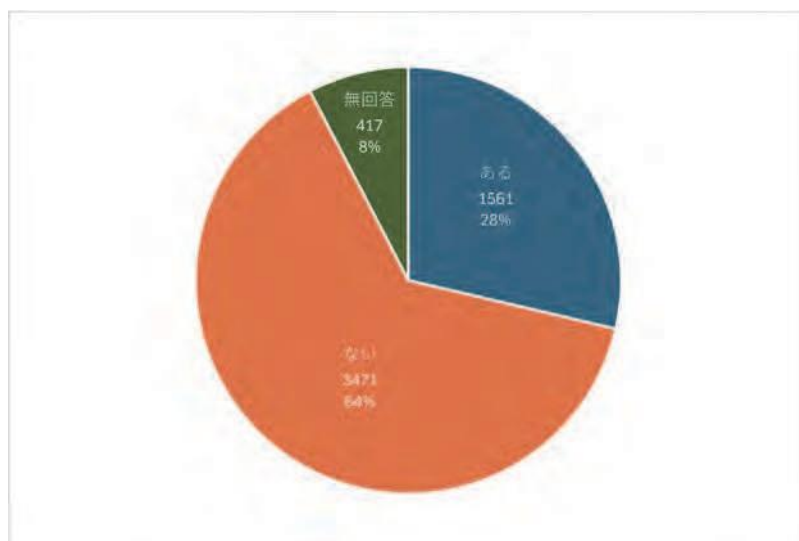
③ 最近、うれしかったことはありますか？



- ・全体として、「人とのつながり」「努力の成果」「好きなこと」「日常の小さな幸せ」など、さまざまな場面でうれしさを感じている。特別な出来事だけでなく、日々の生活の中の小さな出来事にも喜びを見出している生徒が多い。
- ・「友達と遊んだ」「友達が増えた」「家族と出かけた」「友達に褒められた」など、身近な人との関わりやコミュニケーションがうれしかったという声が非常に多い。
- ・「テストでいい点が取れた」「部活で自己ベストが出せた」「体育大会や文化祭で優勝・受賞した」など、勉強や部活動、学校行事での成果や成長を喜ぶ回答が目立つ。
- ・「好きなアニメやゲームの新作が出た」「推しのグッズが手に入った」「ライブやイベントに当選した」など、自分の趣味や推し活に関するうれしさも多く挙げられている。

- ・「美味しいものを食べた」「寝れた」「お菓子をもらった」「新しい服や本を買ってもらった」など、日常の中のちょっとした出来事をうれしいと感じている生徒も多い。
- ・「身長が伸びた」「けがが治った」「運動で記録が伸びた」など、自分自身の成長や健康に関する喜びも見受けられる。
- ・「特にない」「あまりない」「思いつかない」といった回答も一定数ある。

④ 最近、困っていることはありますか？



- ・全体としては「困りごとがない」回答が多い一方で、困りごとがある場合は「勉強」「人間関係」「健康・生活リズム」「部活動」「お金や物理的な環境」など、さまざまな分野で困りごとが挙げられている。

・勉強

成績・受験に関する悩み（やる気が出ない、点数が上がらない、受験が不安）

・人間関係

学校生活での人間関係の悩み（友達関係がうまくいかない、悪口を言われる）
家庭内のコミュニケーションに関する困りごと（家族に相談できない）

・健康・生活リズム

健康や生活リズムに関する悩み（寝不足、睡眠時間が足りない、疲れが取れない）

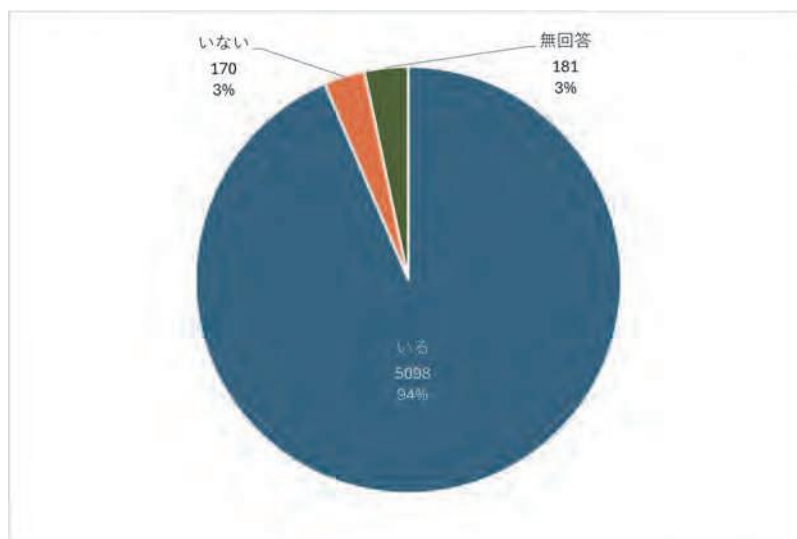
・部活動

部活動に関する悩み（部活がしんどい、部活と勉強の両立ができない）

・お金や物理的な環境

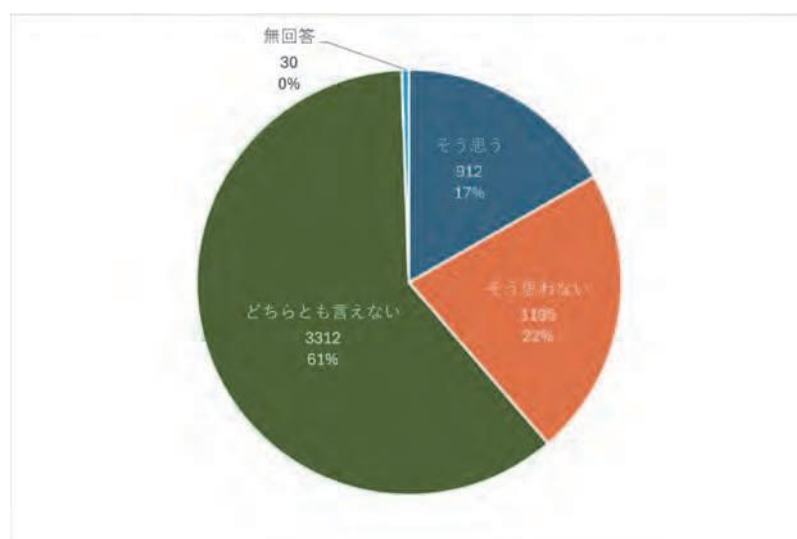
生活環境や物理的な困りごと（お金がない、スマホが没収された、寒い・暑い）

⑤ 困ったとき、相談できる人はいますか？



- 多くの生徒が「家族」「友達」「先生」など、身近な人を挙げている。
- 「家族や友達、先生など複数いる」と答える生徒も多く、特に「お母さん」「お父さん」「親」「担任の先生」など具体的な名前や関係性が頻出している。
- 「内容によって相談相手が変わる」「信頼できる友達や家族がいる」など、状況や悩みの種類によって相談相手を選ぶという声も見られる。
- AI（チャット GPT）」や「ネット」など、デジタルな相談先を挙げる生徒も一部いる。
- 「あまりいない」「いない」「いなくてもいい」「相談したくない」など、相談相手がない、または相談自体を望まないという回答も一定数ある。

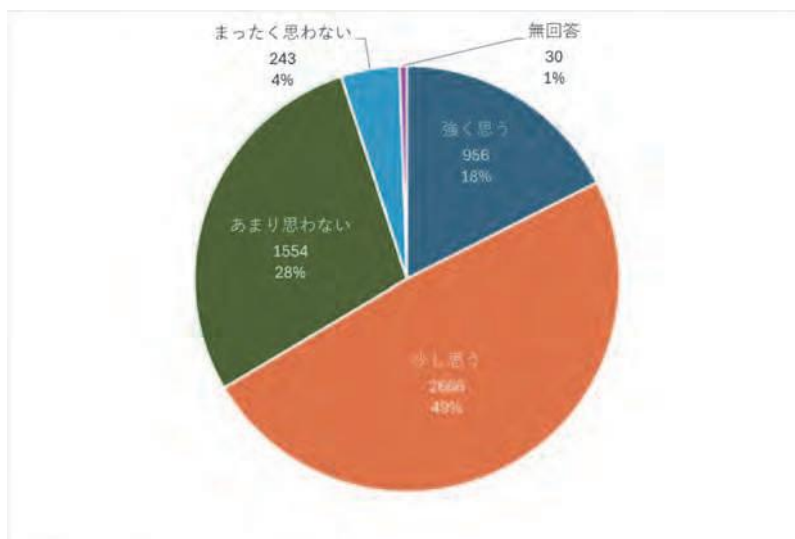
⑥ 自分の意見が社会やまちづくりに活かされと思いますか？



- 「どちらとも言えない」が非常に多く、半数以上を占めている。
- 「そう思う」と「そう思わない」は、どちらも一定数存在するが、「どちらとも言えない」に比べるとやや少なめ。

- ・「どちらとも言えない」が多いのは「自分の意見が社会にどう影響するか実感しにくい」「社会参加の経験が少ない」ことが背景にあると考えられるが、テーマ自体が抽象的で、自分ごととして捉えにくい可能性もある。
- ・「そう思う」「そう思わない」が拮抗している点は、個々の経験や環境によって感じ方が大きく異なることを示している。

⑦「子ども・若者の声をもっと聞いてほしい」と思うことはありますか？



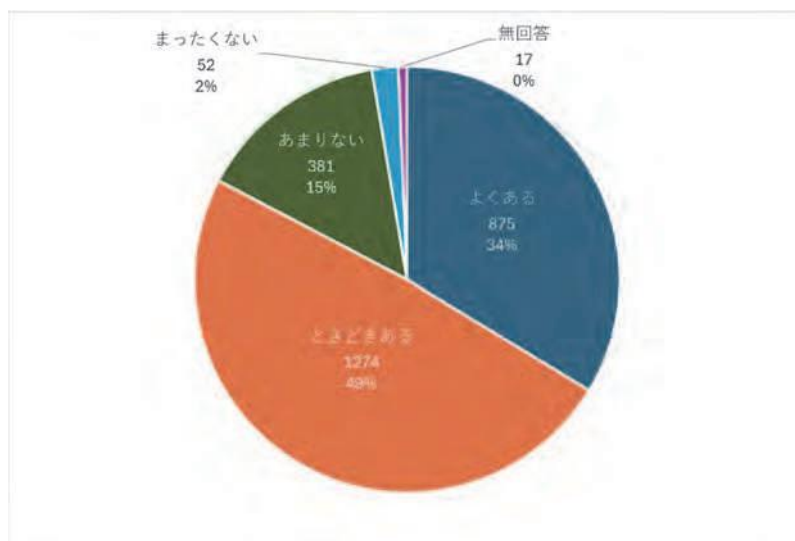
- ・「強く思う」「少し思う」を合わせると、全体の約7割を占めている。
- ・「強く思う」よりも「少し思う」が多いことから、「強い主張」よりも「ややそう思う」という“共感層”が厚い。
- ・「あまり思わない」は全体の3割程度で、無関心や現状に満足している層も存在する。
- ・多くの生徒が「もっと声を聞いてほしい」と感じているが、強い主張よりも「ややそう思う」層が多い

(3) 高校生

① 自分が「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場所はどこですか？

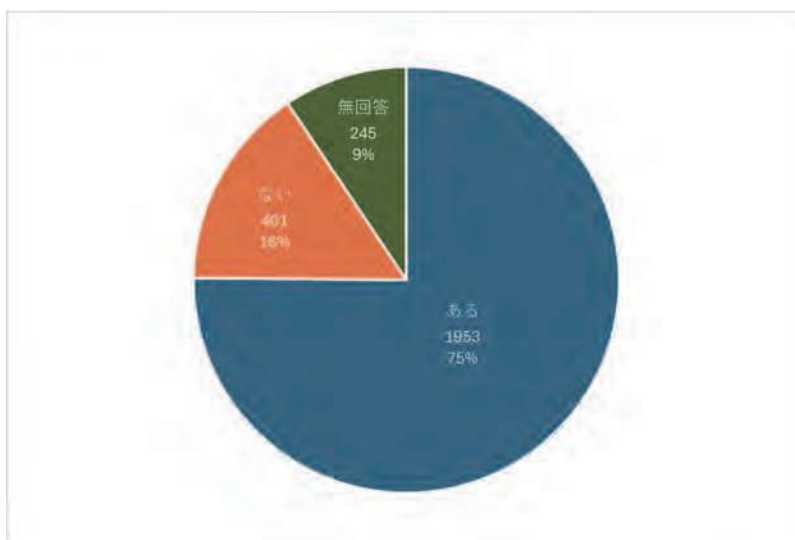
- ・「家」「自宅」「自分の家」「自分の部屋」など、家庭や自分の空間を挙げる回答が圧倒的に多い。
- ・「学校」「クラス」「部活」「学校の教室」など、学校生活の中で安心できると感じる生徒も多い。
- ・「インターネット」「SNS」「図書館」「公園」「グラウンド」「バレエスタジオ」「ライブ会場」など、趣味や活動の場も挙げられている。

② 学校や地域で「自分の意見を言える」と感じる場面はありますか？



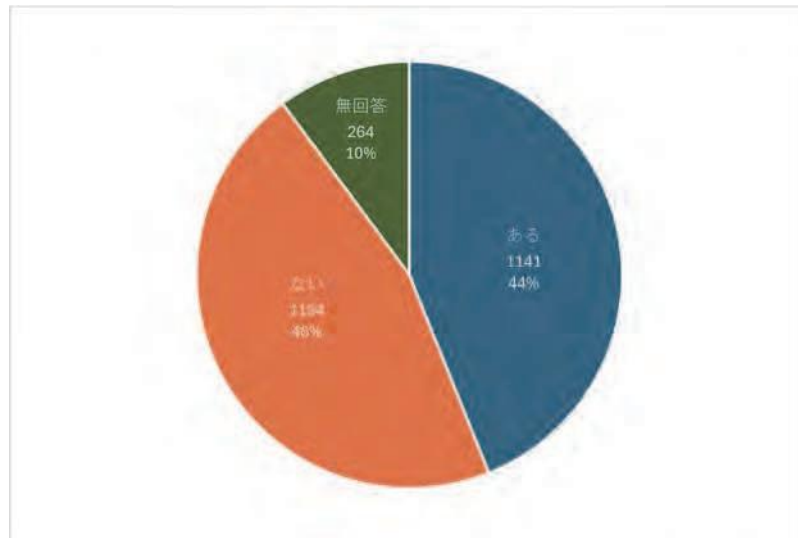
- ・「ときどきある」「よくある」が全体の8割以上を占めており、多くの生徒が何らかの形で意見を表明できる場面を経験していると考えられる。
- ・「あまりない」「まったくない」と感じている生徒も一定数存在するため、学校や地域によって意見表明のしやすさに差があること、また個人の感じ方にも幅があることがうかがえる。

③ 最近、うれしかったことはありますか？



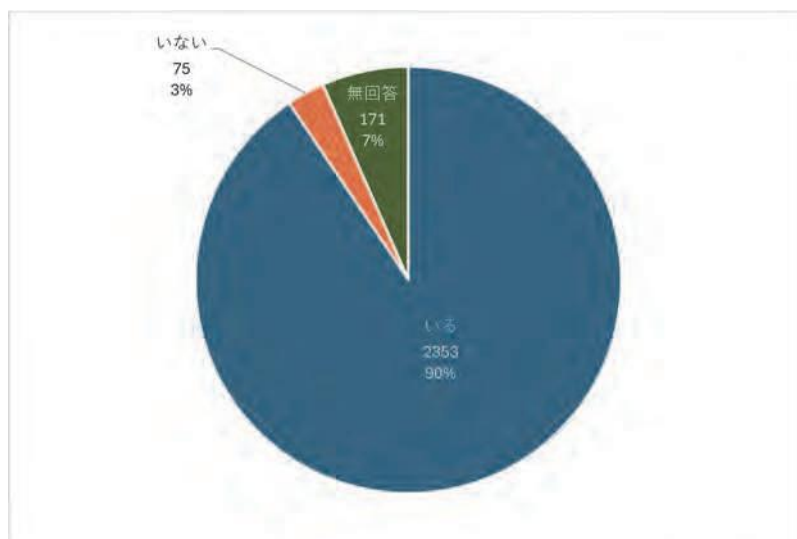
- ・「友達とたくさん話せた」「家族や友達が誕生日をお祝いしてくれた」「好きな K-POP アイドルのライブやイベントにたくさん参戦できた」「一か月前の試合でベストを出した」「テストで良い点数が取れた」など、身近な人間関係や日常の出来事が多く挙げられている。
- ・「ありがとうと言われた」「友達に褒められた」「友達と遊びに行った」など、他者とのポジティブな交流がうれしさの要因になっているケースが目立つ。
- ・「うれしかったこと」は、日常のささやかな出来事から、特別なイベントや人間関係の変化まで多岐にわたっているが、一方で「あります」「ありません」「特にない」など、シンプルな返答も多く見られる。

④ 最近、困っていることはありますか？



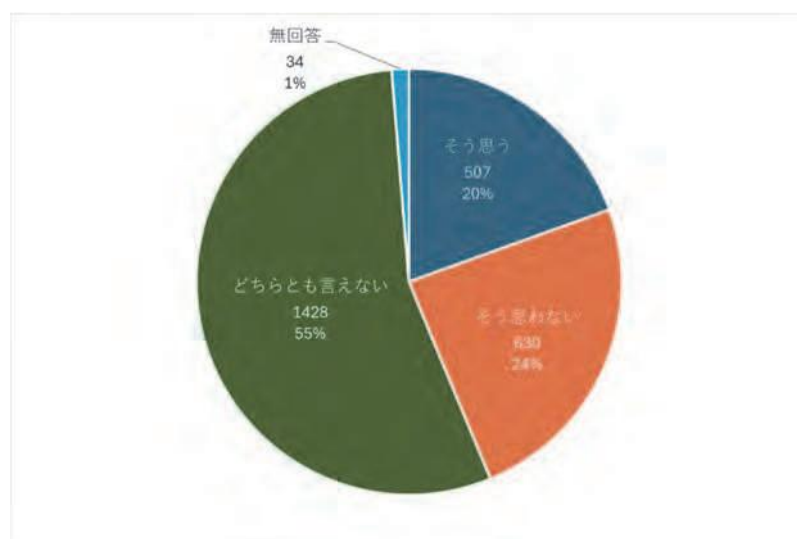
- ・「困りごとがある」「困りごとがない」がほぼ拮抗している。困りごとがある場合は「勉強」「人間関係」「健康・生活リズム」「部活動」「お金・経済的な悩み」など、さまざまな分野で困りごとが挙げられている。
- ・勉強
学業に関する悩み（勉強が難しい、ついていけない、やる気が出ない）
- ・人間関係
学校生活での人間関係の悩み（友達ができない、はぶられていると感じる、人間関係が難しい、いじめられている）
- ・健康・生活リズム
健康や生活リズムに関する悩み（睡眠不足、朝起きれない、太った・痩せない）
- ・部活動
部活動に関する悩み（部活がしんどい、部活がうまくいかない）
- ・お金・経済的な悩み
金銭的な困りごと（金欠、アルバイト禁止で困っている、物価高）
- ・その他スマホ依存、将来や進路への不安、家族関係、生活環境（通学・交通・施設）、体の痛みなどの悩みが見受けられる。

⑤ 困ったとき、相談できる人はいますか？



- ・「いる」と答えた生徒が多数。特に「家族」「友達」「先生」の3つが圧倒的に多く、複数併記も目立つ。
- ・「いない」と答えた生徒も一定数存在している。
- ・「たくさんいる」「いっぱいおる」など、相談相手が豊富であることを強調する生徒もいる。
- ・「あまりいない」「あまり相談しない」など、相談相手がいても実際には相談しづらい、または限定的な関係であることを示す回答も多い。
- ・「自分で考える」「AI」など、従来の人間関係以外の選択肢も一部で見られ、現代的な傾向も反映されている。

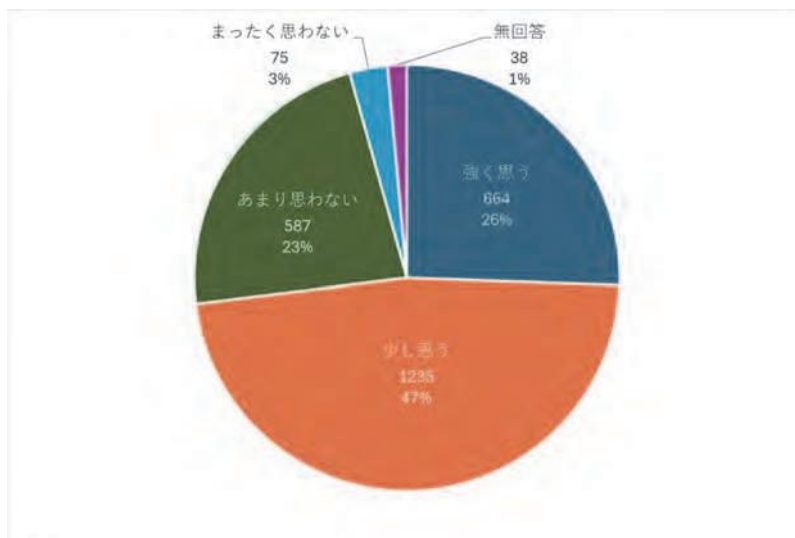
⑥ 自分の意見が社会やまちづくりに活かされると思いますか？



- ・「どちらとも言えない」が半数以上を占めており、自分の意見が活かされているかどうか判断が難しい、もしくは実感が少ない生徒が多い。

- ・僅差ではあるが「そう思う」よりも「そう思わない」の方が多く、自分の意見が社会やまちづくりに活かされると前向きに感じている生徒と自分の意見が社会やまちづくりに反映されていないと感じている生徒が拮抗している。

⑦「こども・若者の声をもっと聞いてほしい」と思うことはありますか？



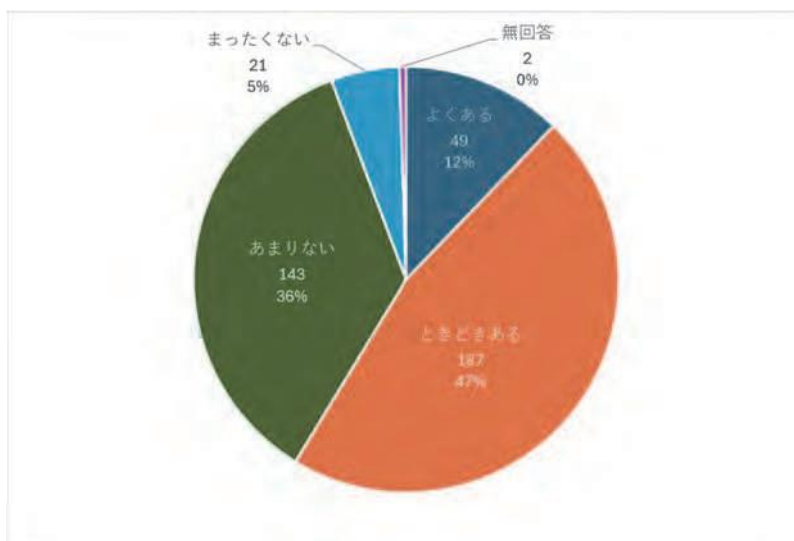
- ・「強く思う」「少し思う」を合わせると、全体の7割以上を占めている。
- ・「強く思う」よりも「少し思う」が多いことから、「強い主張」よりも「ややそう思う」という“共感層”が厚い。
- ・「あまり思わない」は全体の3割程度で、無関心や現状に満足している層も存在する。
- ・中学生よりも「強く思う」の割合が多い。

(4) 若者

① あなたが「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場面や場所がありますか？

- ・「家」「自宅」「実家」「自分の部屋」など、家庭内で安心感や自分らしさを感じるという回答が圧倒的に多い。
- ・家族や親しい友人と一緒にいる時、ありのままの自分でいられるとの回答も多い。
- ・明石市やその周辺の「治安の良さ」「地域の温かさ」「子どもが多い街」「夜でも安心して歩ける」など、地元への愛着や安心感を挙げる回答も多い。
- ・「大蔵海岸」「江井島海岸」「藤江海岸」などの海辺や公園、「明石市立図書館」「西部図書館」など、静かで落ち着ける図書館も挙げられている。

② 地域や制度に対して「声が届いている」と感じることはありますか？



- 地域や制度に対して「声が届いている」との回答は「よくある」「ときどきある」を合わせると全体の約6割だが、「あまりない」「まったくない」との回答も約4割存在する。
- 「ときどきある」「あまりない」が多く、声が十分に届いていると感じている層は少数である。

③ 明石市で暮らしてよかったと思うことは何ですか？

- 子育て・教育支援が充実
 - 18歳まで医療費が無料、中学生の給食費も無料
 - おむつ定期便や保育料の無料化など、子育て世代への手厚いサポート
 - 図書館や自習スペースが多く、勉強できる環境が整っている
 - 子どもが多く、活気がある街
- 交通の利便性
 - JR、山陽電鉄、新幹線が利用でき、都市部（神戸・大阪・姫路など）へのアクセスが良い
 - 駅前が発達していて、必要な施設がコンパクトにまとまっている
 - タクシーなど地域交通も充実
- 生活のしやすさ
 - コンビニやドラッグストアが点在し、生活必需品の買い物に困らない
 - ゴミの分別が楽で、指定ゴミ袋が不要
 - 公共施設や行政手続きが便利（パピオス明石など）
- 自然と景観
 - 海や山、公園が身近にあり、自然を感じながら暮らせる
 - 明石海峡大橋や海の景色が美しい
 - 気候が良く、晴れの日が多い
- 治安・人柄
 - 治安が良く、夜でも安心して歩ける
 - 人柄が良く、地域の雰囲気が温かい

・地域の魅力・制度

おいしい海鮮やご飯がすぐ食べられる
市民の声が届きやすい規模感
若者会議や意見募集など、市民参加の機会が多い
経済政策や福祉制度も充実

④ 明石市において、若者として感じる課題や改善してほしいことは何ですか？

・若者の「居場所」や意見発信の機会の不足

若者が自由に過ごせるスペースや、意見を出せる場が少ない。
無料で使えるフリースペースや自習室、コワーキングスペースの増設希望。
若者向けのイベントやボランティア、チャレンジできるプログラムの拡充。
世代を超えてつながる場や、社会人になってからの居場所が少ない。

・交通・インフラ・安全面の課題

街灯や防犯カメラの不足、夜道の暗さや治安への不安。
バスや電車の本数・利便性の向上、駅や道路のバリアフリー化。
自転車専用道路や歩道の整備、交通マナーの改善。
駅周辺や道路の混雑、駐輪場やロータリーの不足。

・教育・学習・キャリア支援

高校・大学への支援や、資格取得のための金銭的サポート。
学習スペースや図書館の拡充、医療費や通学定期の補助。
地元でキャリアを築きたい若者への支援体制の強化。

・住宅・生活コスト・経済的支援

家賃や地価の高騰、住宅購入の負担軽減。
一人暮らしや独身世帯への支援、家賃補助や生活サポート。
物価高騰への対策や、現金給付以外の還元制度の要望。

・子育て・保育・福祉

保育園や児童館の不足、待機児童問題。
子育て支援の充実と、子育て世帯以外へのバランスある支援。
保育士や教員の待遇改善、保育の質向上。

・商業・娯楽・地域活性化

若者向けの娯楽施設やショッピングモールの不足。
駅前以外の地域の賑わいづくり、地域イベントの充実。
地元商店街や個人経営店の活性化。

・多様性・社会的包摂

外国人や社会的マイノリティへの配慮、差別のない制度づくり。
地域行事や自治会への参加のしやすさ、移住者との関係性。

⑤ 若者がもっと地域に関われるようにするには、どんな仕組みがあるとよいと思いますか？

・SNS、インターネットの活用

「自治会報だけでは届かない」「若者が使う SNS で発信」「SNS でイベントやアンケートを告知」「SNS で見てアンケートに参加した」など、従来の紙媒体や回覧板では若者に情報が届きにくいという課題意識が強く見られる。

・イベント・交流の場の充実

「イベントの開催・増加」「若者向けイベント」「ボランティア活動」「お祭り・フェス」「交流会」など、実際に集まれる場や体験の機会を増やすべきという意見も多く見られる。

「気軽に参加できる」「友達同士でもOK」「参加に特典（ギフト券、ポイント、参加賞など）」といった、参加のハードルを下げる工夫やインセンティブの提案も目立つ。

・意見を伝える・反映される仕組み

「アンケートの機会を増やす」「意見箱やネット上で意見を出せる」「意見が反映されたことを周知」など、若者の声を集めて反映する仕組みへの要望も多い。

・参加のハードルを下げる工夫

「気軽に参加できる」「縛りが少ない」「1時間からのボランティア」「ふらっと立ち寄れる場所」「オンラインで参加できる」など、柔軟でライトな関わり方を求める声が多い。

・情報の届け方・見せ方の工夫

「駅やショッピングセンターなど若者が集まる場所での告知」「チラシやポスターの設置」「インフルエンサーの活用」「キャッチコピーやコラボ企画」など、情報が自然に目に入る工夫や、興味を引く見せ方への提案も多く見られる。

・参加メリットの明確化

「ポイント制や地域通貨」「参加賞や特典」「ボランティアやイベント参加で得られるメリット」など、関わることで得られる具体的なメリットを示すことが重要という意見も目立つ。

・若者専用、若者向けの場や制度

「ユーススペース」「若者向けコミュニティ」「若者専用イベント」「若者優遇制度」など、若者が主役になれる・気兼ねなく集まれる場や制度の必要性も挙げられている。

(5) 全世代共通設問「こんな“あかし”になったらいいな」

全世代に共通するキーワード・価値観

・安心・安全

犯罪や事故のない街、防犯・災害対策、治安の良さを求める声が全世代で強い。

・住みやすさ

公園や自然、交通の利便性、清潔な街並みなど、生活環境の快適さを重視。

・人とのつながり

助け合い、思いやり、地域交流、声をかけやすい雰囲気など、温かいコミュニティを望む意見が多い。

・楽しさ・魅力

イベント、観光、文化、スポーツなど、街に活気と楽しさを求める傾向。

世代別の特徴

小学生

- ・遊び場・自然：「公園が多い」「安全に遊べる場所」「動物や自然と触れ合える」など、遊びや体験の場を求める声为中心。
- ・安心感：「危険がない」「見守り」など、保護される環境への期待。

中学生

- ・学びと遊びの両立：「勉強できる場所」「習い事の支援」「部活動やスポーツイベント」など、成長の機会を求める。
- ・交流の場：「友達と集まれる場所」「カフェ」「イベント」など、コミュニティ形成への関心。

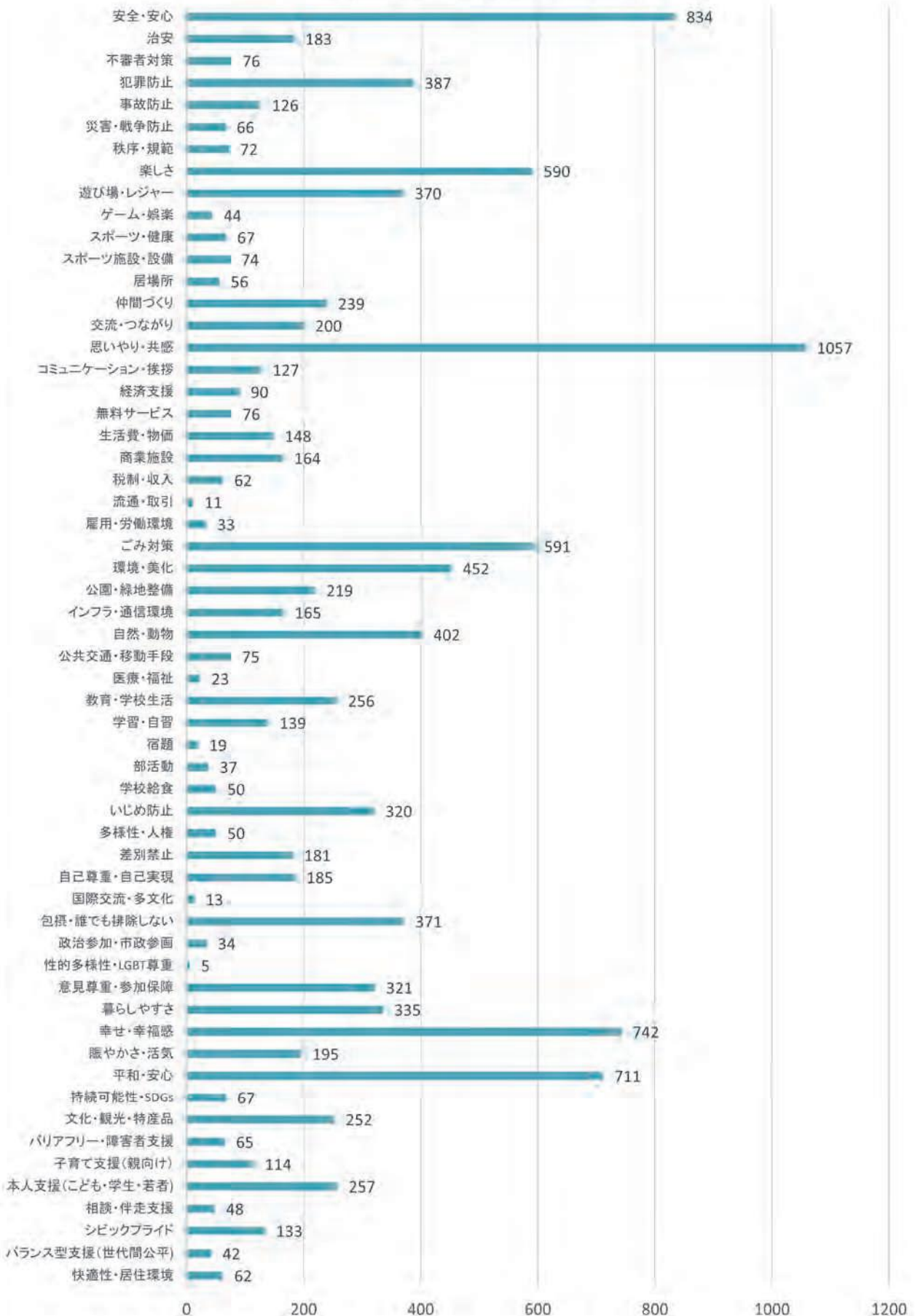
高校生

- ・進路・挑戦の支援：「留学」「資格取得」「進学・就職イベント」など、未来への準備を応援する仕組みを望む。
- ・自己表現・文化：「アート」「音楽」「写真」など、個性を發揮できる場や支援を求める。

若者

- ・子育て・ライフステージ支援：「子育てしやすい」「保育園」「出産支援」など、ライフイベントに直結するニーズが強い。
- ・多様性・インクルージョン：「LGBTQ」「障害者」「外国人」など、誰もが認められる街への期待。
- ・キャリア・夢の実現：「起業」「留学」「挑戦を応援」など、閉塞感を打破し、未来に希望を持てる環境を求める。

カテゴリーごとの意見数



小学生の意見の特徴

1. 安全・安心なまちへの強い願望

「犯罪がない」「不審者がいない」「事故がない」「治安が良い」「安心安全」など「危険がない」「事件や事故が起きない」ことを強く望んでおり、夜でも安心して過ごせる環境や防犯対策への期待が高い。

2. いじめ・差別のない社会

「いじめがない」「差別がない」「みんな仲良し」「平等」「ジェンダー平等」など学校生活や地域での人間関係において、優しさや思いやりを重視する声が非常に多い。「ふわふわ言葉を使う」「悪口を言わない」など、言葉遣いへの意識も見られる。

3. 笑顔・楽しい・平和

「笑顔あふれる」「楽しい」「平和」「ハッピー」「みんなが幸せ」などポジティブな雰囲気を求める声が圧倒的で、「みんなが笑顔で過ごせる」「楽しいイベントやお祭りがある」など、心地よいコミュニティを望んでいる。

4. 環境・自然・きれいなまち

「ゴミがない」「ポイ捨てなし」「海や川がきれい」「自然豊か」「SDGs」など環境問題への意識が高く、「ゴミ拾い」「海をきれいに」「外来種を減らす」等のSDGsに関連する考え方も多く見られる。

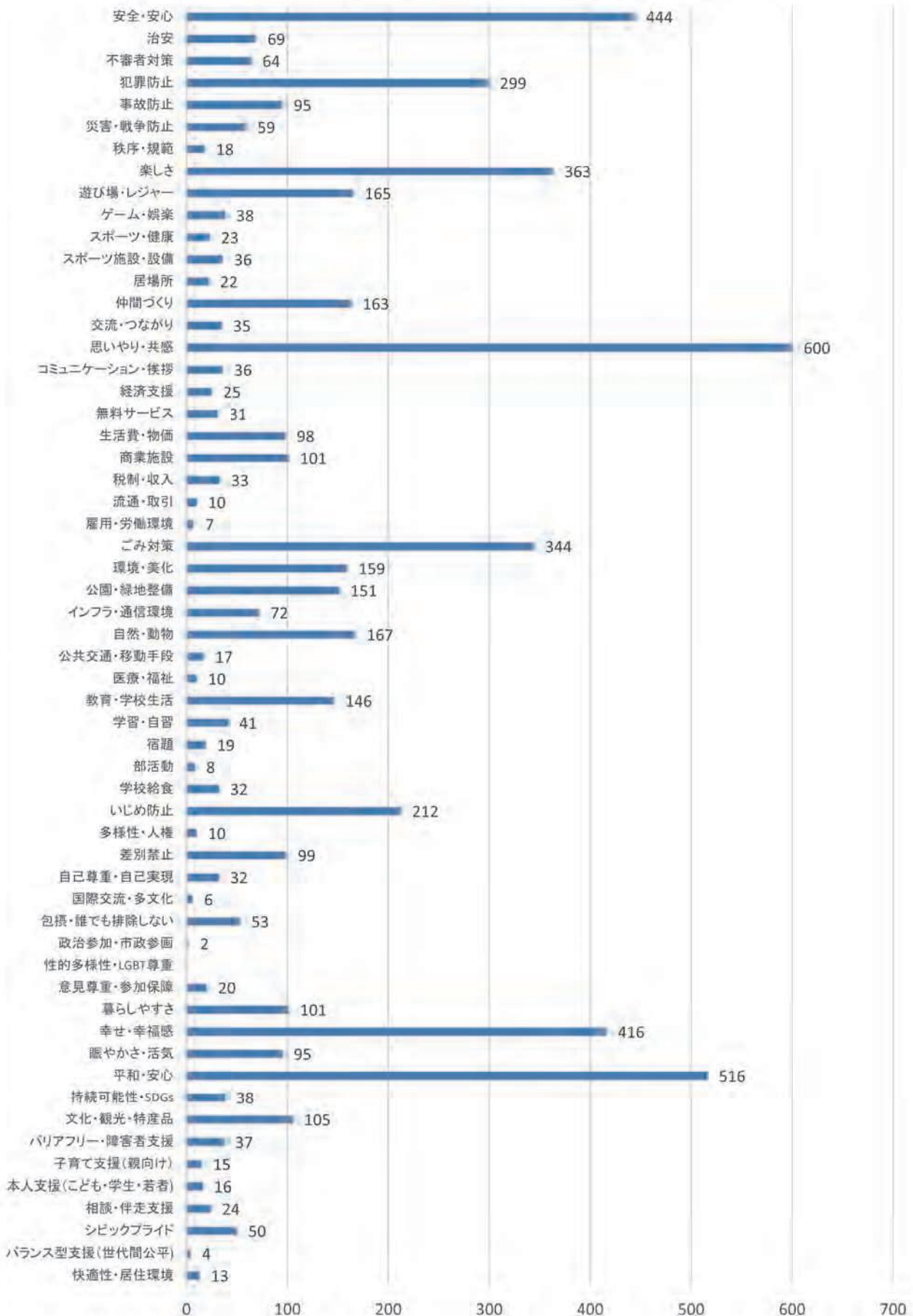
5. 暮らしやすさ・経済面

「物価が安い」「税金を下げた」「給料アップ」「食べ物が安い」など「物価高」や「生活のしやすさ」に関心があり、経済的な負担を減らすことを望む声が目立つ。

6. 遊び場・施設の充実

「公園を増やして」「遊園地」「水族館」「図書館」「ゲームセンター」など遊びや学びの場を増やしたいという要望が多く、「無料で遊べる施設」「Wi-Fiがある場所」「スポーツができる公園」など具体的な提案もある。

【小学生】カテゴリーごとの意見数



中学生の意見の特徴

1. 人間関係・コミュニティに関する願い

「一人一人が大切にされる」「意見が尊重される」「お互いを思いやれる」「差別や偏見がない」など、人権や個性を尊重する社会を望む声が非常に多い。

「いじめがない」「喧嘩がない」「陰口がない」など、安心して過ごせる人間関係を求めている。

「挨拶ができる」「笑顔があふれる」「地域交流が増える」など、温かい雰囲気やコミュニケーションを重視する傾向がある。

2. 安心・安全な暮らし

「犯罪がない」「不審者がいない」「夜道が安全」など、安全性への強い関心が見られる。「防災」「災害に強いまち」など、安心できる生活基盤を求めている。

3. 環境・自然への配慮

「自然が大切にされる」「海がきれい」「環境にやさしい」など、環境保護やSDGsに関する意識が高い。

「ポイ捨てがない」「きれいなまち」「ゴミ拾い」など、清潔な街づくりを望む声が多数。

4. 個性・多様性の尊重

「性別や国籍に関係なく」「多様性が尊重される」「個性を認め合える」など、現代的な価値観を反映した意見が目立つ。

5. 子ども・若者への配慮

「子供の意見を尊重」「遊び場を増やす」「教育を大切に」など、子どもや若者の居場所や声を重視する傾向。

「勉強できるスペース」「図書館を増やす」「給食がおいしい」など、学習環境への要望も多い。

6. 楽しさ・娯楽の充実

「公園を増やす」「ボーリング場や映画館」「イベントが多い」など、娯楽施設や地域行事への期待が強い。

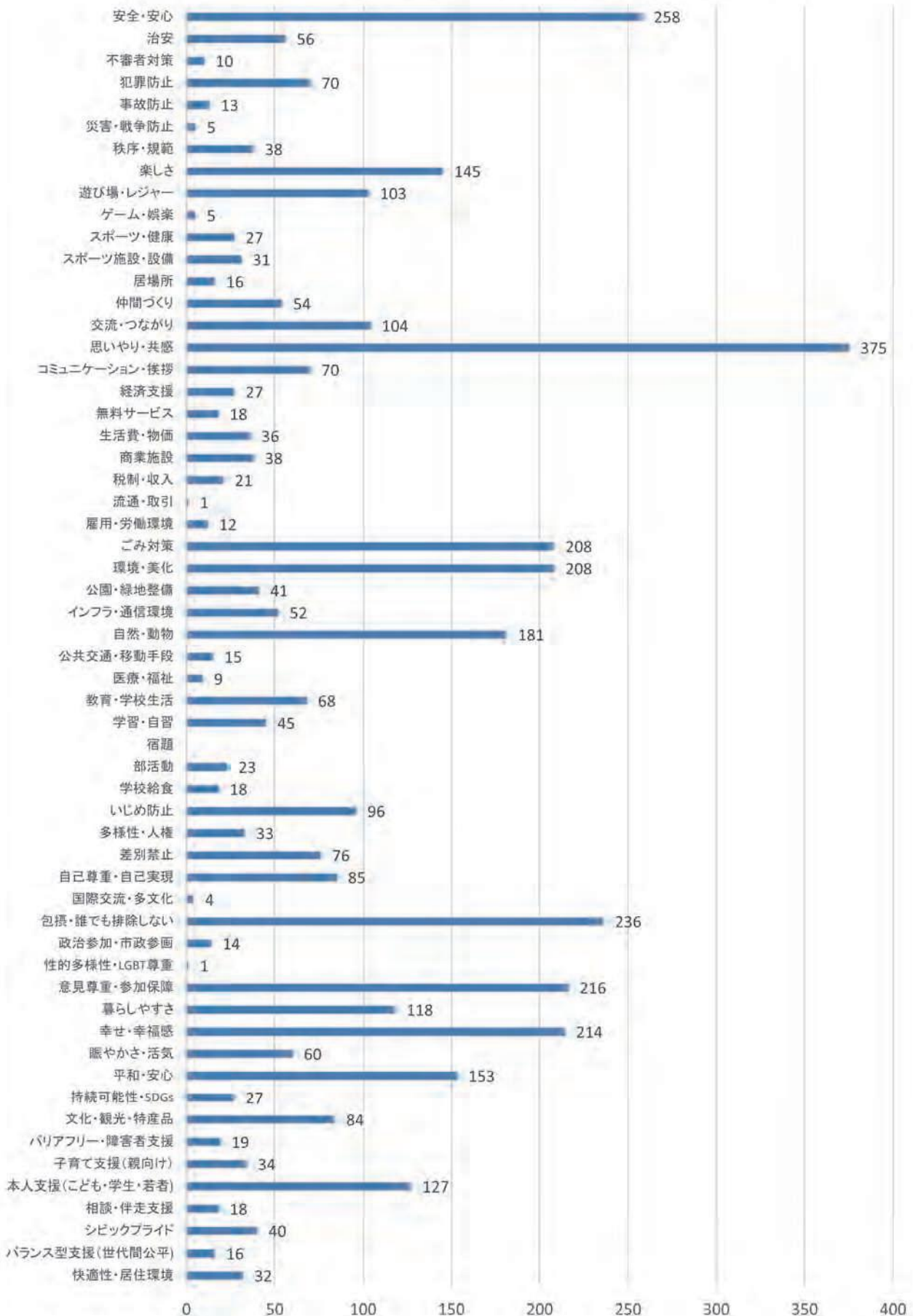
「バスケットゴールを増やす」「スポーツができる場所」など、運動できる環境への要望も目立つ。

7. 経済・生活のしやすさ

「物価が安い」「税金が少ない」「給付金」など、経済的負担を減らしたいという声。

「交通が便利」「駅周辺の開発」「ショッピングモール」など、都市機能の充実を求めている。

【中学生】カテゴリごとの意見数



高校生の意見の特徴

1. 安心・安全なまちづくり

「治安が良い」「犯罪がない」「事故がない」「夜も安心して歩ける」など、安全性への強い要望が目立つ。

「安心して暮らせる」「安心して登下校できる」など、日常生活の安全確保を重視。

2. 意見が尊重されるまち

「子供の意見が反映される」「若者の声を聞いてほしい」「全員の意見が平等に反映される」など、参加型のまちづくりへの期待が強い。

「自由に意見が言える」「個性が尊重される」など、自己表現の場を求める声も多い。

3. 遊び場・交流スペースの充実

「遊べる場所が増えてほしい」「高校生が気軽に入れるフリースペース」「ボウリング場やテーマパーク」など、娯楽・交流の場不足が顕著。

「学校帰りに自習できる場所」「無料で勉強できるスペース」など、学習環境と遊び場の両立を求める声も。

4. 自然・環境の保全

「自然が大切にされる」「海がきれい」「緑豊かなまち」など、自然環境の維持・改善を望む声が多い。

「ポイ捨て禁止」「ゴミがない街」など、環境美化への意識も高い。

5. 平等・思いやり・多様性

「みんなが仲良く」「差別がない」「ジェンダーレスな明石」など、多様性と共生を重視。

「思いやりがある街」「助け合える街」など、人間関係の温かさを求める声も。

6. 教育・若者支援

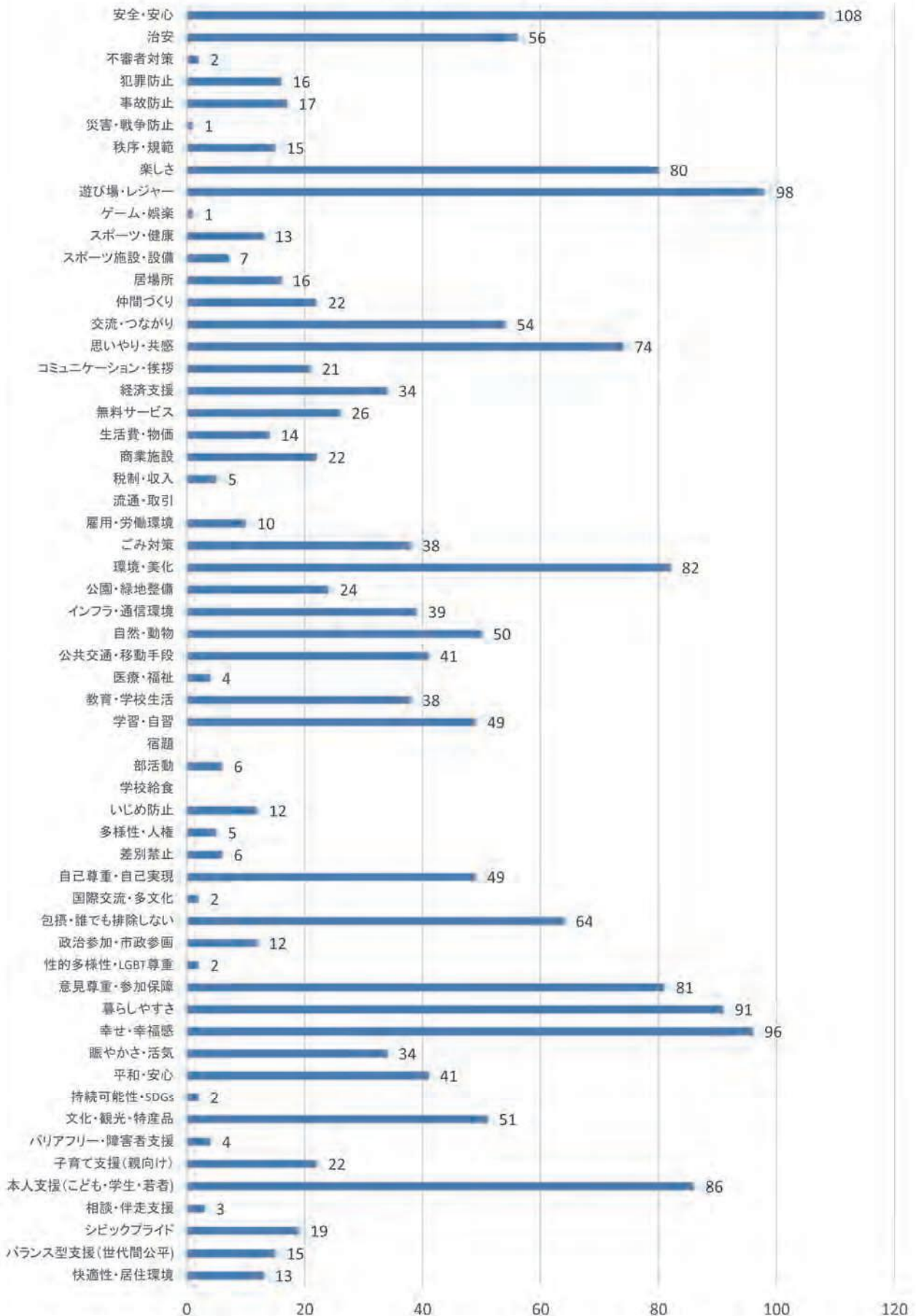
「高校生・大学生への支援」「交通費無料」「学費無償化」など、経済的負担軽減を求める声が多い。

「部活動の充実」「校則の緩和」「勉強スペースの確保」など、学習・活動環境改善への要望。

7. 交通・利便性の向上

「タコバスの本数増加」「駅を増やしてほしい」「自転車専用道路」など、移動の不便さ解消を求める声が多数。

【高校生】カテゴリごとの意見数



若者の意見の特徴

1. 子育て・教育への強い関心

「子育てしやすいまち」「子育て支援が日本一」「保育園や幼稚園が入りやすい」「高校生の定期代無料」「教育の充実度」など、子育てや教育に関する要望が圧倒的に多い。特に第一子から安心して産める環境や 妊娠・出産後の制度強化 など、ライフステージの初期を支える仕組みへの期待が強い。子どもの笑顔や安全を守ること、学びの機会を広げること（留学支援、資格取得支援など）も重要視。

2. 安心・安全で住みやすい街

「安心安全」「犯罪がない」「災害対策」「交通事故ゼロ」「治安の良い街」など、安全性に関するキーワードが頻出。

「どの世代も安心して過ごせる」「ずっと住み続けたい」「一生住める街」など、長期的な居住のしやすさも重視。バリアフリーや障害者・精神疾患への配慮も挙げられており、インクルーシブな街づくりへの期待が見える。

3. 多様性・個性の尊重

「LGBT が認められる」「性別や年齢関係なく」「外国人やハーフが認められる」「どんな人も認められる」など、ダイバーシティの尊重が強調されている。

「挑戦が応援される」「個性を伸ばせる」「夢を叶える支援」など、若者が自分らしく生きられる環境を求める声も多い。

4. 若者の活躍・夢の応援

「若者が活躍できる」「学生が応援される」「若者に投資」「起業や留学支援」など、キャリア形成や挑戦の機会を求める意見が目立つ。

「閉塞感を打破する教育」「将来に夢を持てるような仕組み」など、未来への希望を持てる街づくりが重要。

5. コミュニティ・つながり

「人々が助け合える」「地域の距離が近い」「声をかけても不審者扱いされない」「市民の声が届く」など、温かい人間関係や市民参加を重視。

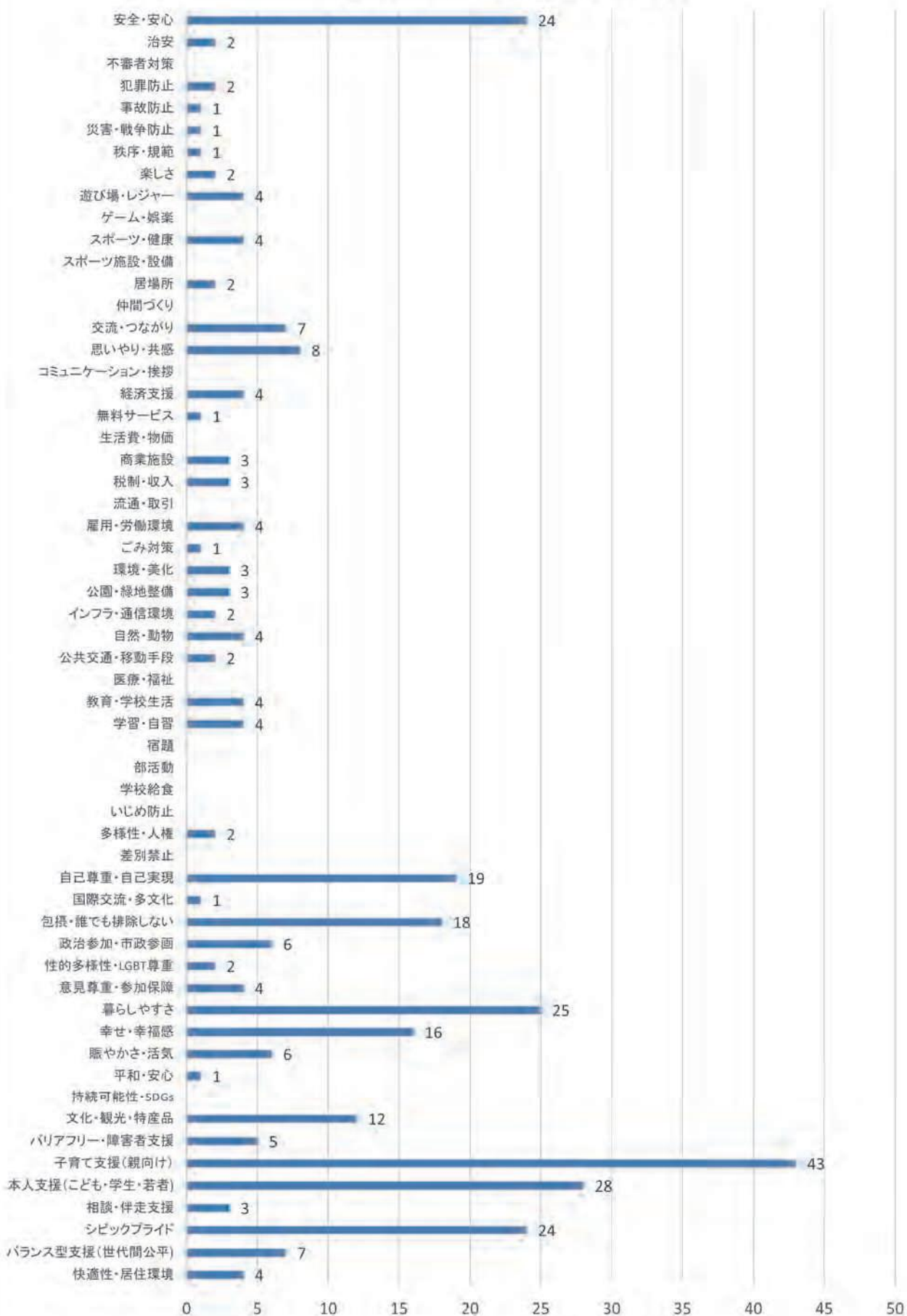
「イベントが多い」「楽しい町」「みんなが集まれるカフェ」など、交流の場や文化的な魅力も求められている。

6. 便利さ・都市機能の充実

「大型商業施設」「交通の利便性」「渋滞解消」「駅のバリアフリー」「買い物できる場所」など、生活利便性への要望も多い。

「観光地として魅力」「海や景観」「明石焼きや魚の棚の活性化」など、地域資源の活用とブランド力強化も期待されている。

【若者】カテゴリーごとの意見数



明石市こども・若者計画

2026年(令和8年)3月

発行：明石市
〒673-8686
明石市中崎1丁目5番1号
TEL 078-918-6073

編集：明石市こども局子育て支援室こども政策課